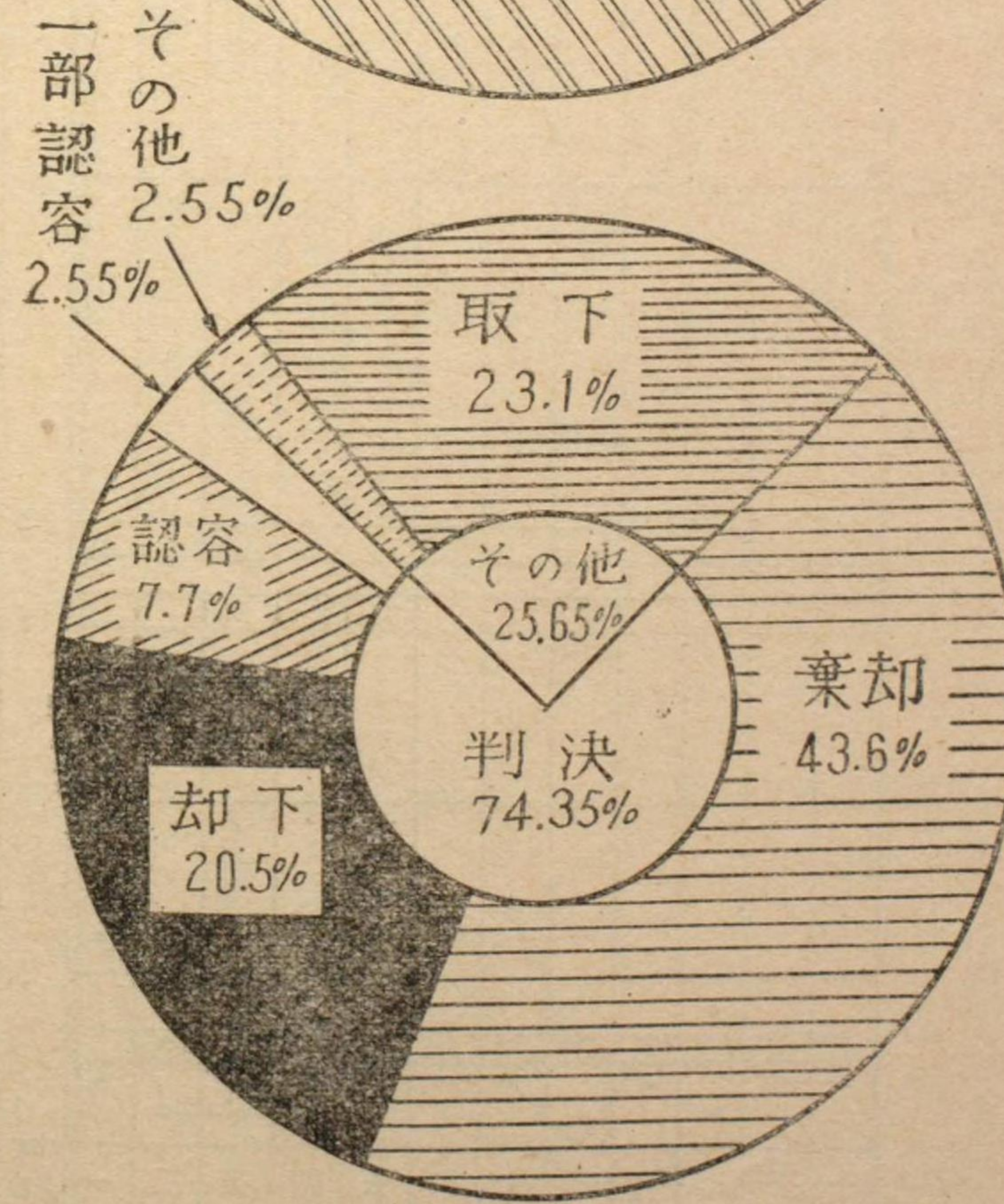
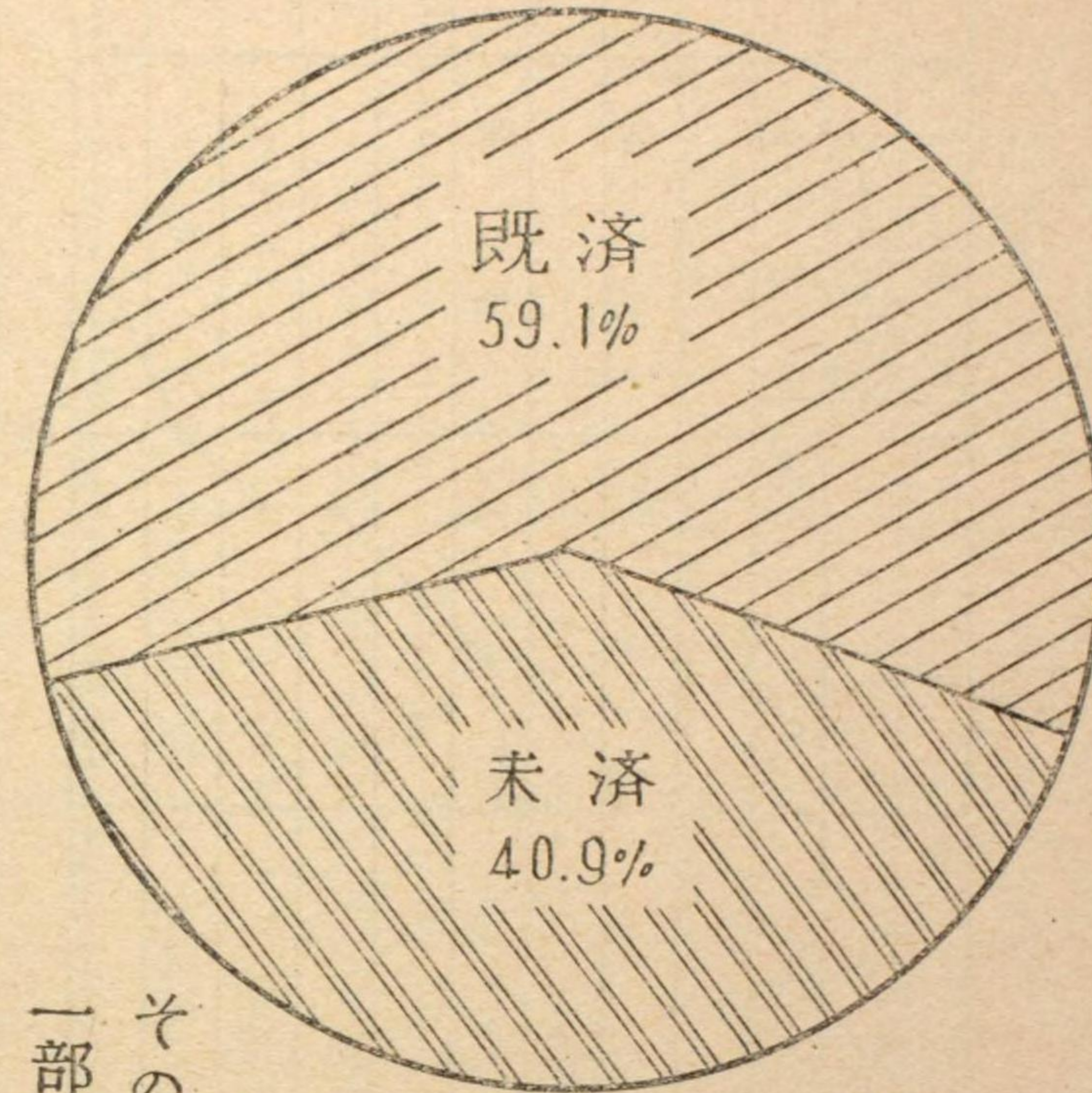


甲府地方	静岡地方	前橋地方	宇都宮地方	水戸地方	千葉地方	浦和地方	東京地方	新受種別	
								裁判所	別受
三	一				一	一七	元	税所得所	二
		二	二	一		四	二	税人法	二
			一					税与贈	
	一							税高引取	
							一	税産財	
								税別特償補時戦	
								税得所加増	
								税関	
								税国の他のそ	
							二	税業事	
				一				税民県府道都	
								税民村町市	
								税方地の他のそ	
						四	一七	計	一〇八
一	六	三	三	二	一	六五	一七	計受旧新	一〇八
一	四	三	三	二	一	六	四	容認	
								却棄	二
	一							下却	二
								下取	一三
一	六	二	一	二	一	一	一七	計	七二
一	四	二	一	二	一	一	一七	計	一七
		一	二			六	三六	計	三六
						六	元	計	元

【4】

一 昭和二十五年分

税法関係行政事件件数表



【3】 行政事件訴訟年鑑
四 昭和二十五年分 選挙関係行政事件件数比較図表
(イ) 受理件数に対する既済未済件数の比較

(ロ) 既済理由別件数の比較

福島地方	仙台地方	宮崎地方	鹿児島地方	熊本地方	長崎地方	福岡地方	松江地方	鳥取地方	岡山地方	山口地方	広島地方
二			一			九二	七		三		一
一		一	二	二	二	九	九		三	二	三
								一			
									一		
											一
			一		一	一一三	三		一		
一	五							二			
									一		
二	五	一	三	二	三	一一三	一三	三	六	二	四
4	5	1	221	2	3	395	19	3	11	2	28
四	五	一	四	二	三	二二四	一九	三	九	二	五
							一	一			
						一〇	一		二		一
三			三	三	三	八七	七	一	一	一	一三
3			218		3	143	9	1	4	1	13
三			三	三	三	九七	九	一	三	一	二
1	5	1	3	2		252	10	2	7	1	15
一	五	一	一	二		二二七	一〇	二	六	一	三

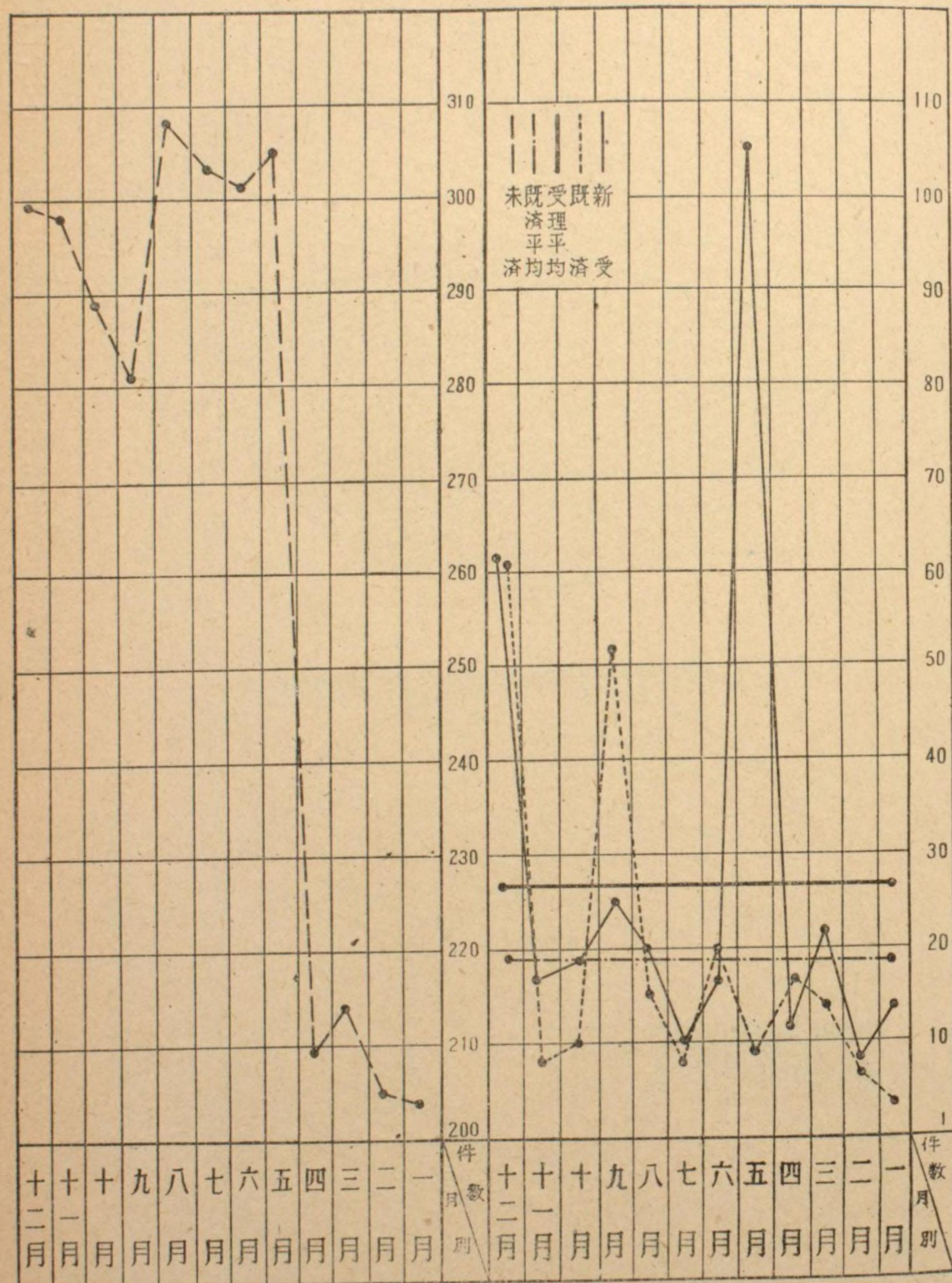
富山地方	金沢地方	福井地方	岐阜地方	名古屋地方	和歌山地方	大津地方	神戸地方	京都地方	大阪地方	新潟地方	長野地方
二		二		二			二	二	三		一
	一		一	五	一	一	一	一	七	二	
								一	一		二
一									一	二	
								一			
							一		一		
二									四	一	一
							一		一		
三	一		一	五	一	一	四	三	一五	六	四
5	1	2	1	7	1	1	7	5	29	6	5
五	一	二	一	七	一	一	六	五	一八	六	五
										一	
							一				一
								一			
五	一	二	一	三	一	一	四	三	六	1	三
5	1	2	1	3	1	1	6	3	6	1	3
五	一	二	一	三	一	一	五	三	六	一	三
				4			1	2	23	5	2
							一	二	一三	五	二

計			最高					等		
受理			未 済	既 済	受理			未 済	既 済	理 計
計	新受	旧受			計	新受	旧受			
1972	1972									
三三五	三三五		二		二	二	三	三	六	
二〇七	一三	一九四	三		三	一	三		三	
三二二	八	二〇四	四		四	一	三		三	
三二七	三三	二〇五	四		四		四		五	
三二八	一一	二一四	四		四		四		六	
三二四	一〇五	二〇三	四		四		四		六	
三二二	一六	三〇五	四		四		四		八	
三二二	一〇	三〇一	四		四		四		一〇	
三三三	二〇	三〇三	三	一	四		四		一〇	
三三三	二五	三〇八	三		三		三		一二	
二九九	一八	二八一	二	一	三		三		一〇	三
三〇六	一七	二八九	二		二		二		九	一
三六〇	六二	二九八	一	二	三	一	二		九	九
1096	751	345								※
五三三	三二八	一九四	一	四	五	三	二		九	四
2723	2723									
六六三	六六三		一	四	五	五			九	七

【4】

二 昭和二十五年度分 税法関係行政事件月別受理未済件数比較表

高	方	地	受理			別	月
			未 済	既 済	理 計		
新受	旧受	未 済	既 済	計	新受	旧受	果結
六		一八九	一三八	三二七	三二七		計累の
	三	一九八	三	二〇一	二	一九九	前
	三	一九八	七	二〇五	七	一九八	月
二	三	二〇五	一三	二一八	二〇	一九八	月
一	五	一九九	一七	二一六	一一	二〇五	月
	六	二九五	九	三〇四	一〇五	一九九	月
二	六	二八九	二〇	三〇九	一四	二九五	月
二	八	二八九	八	二九七	八	二八九	月
	一〇	二九五	一四	三〇九	二〇	二八九	月
二	一〇	二六六	五二	三三八	三三	二九五	月
一	一一	二七七	六	二八三	一七	二六六	月
	一〇	二八七	七	二九四	一七	二七七	月
	九	二八九	五九	三四八	六二	二八七	月
※						※	計
一〇	三	二八九	二二五	五〇四	三二五	一八九	
一六		二八九	三五三	六四二	六四二		計 累



【4】 三 昭和二十五年年度分 税法関係行政事件月別既済未済件数比較図表

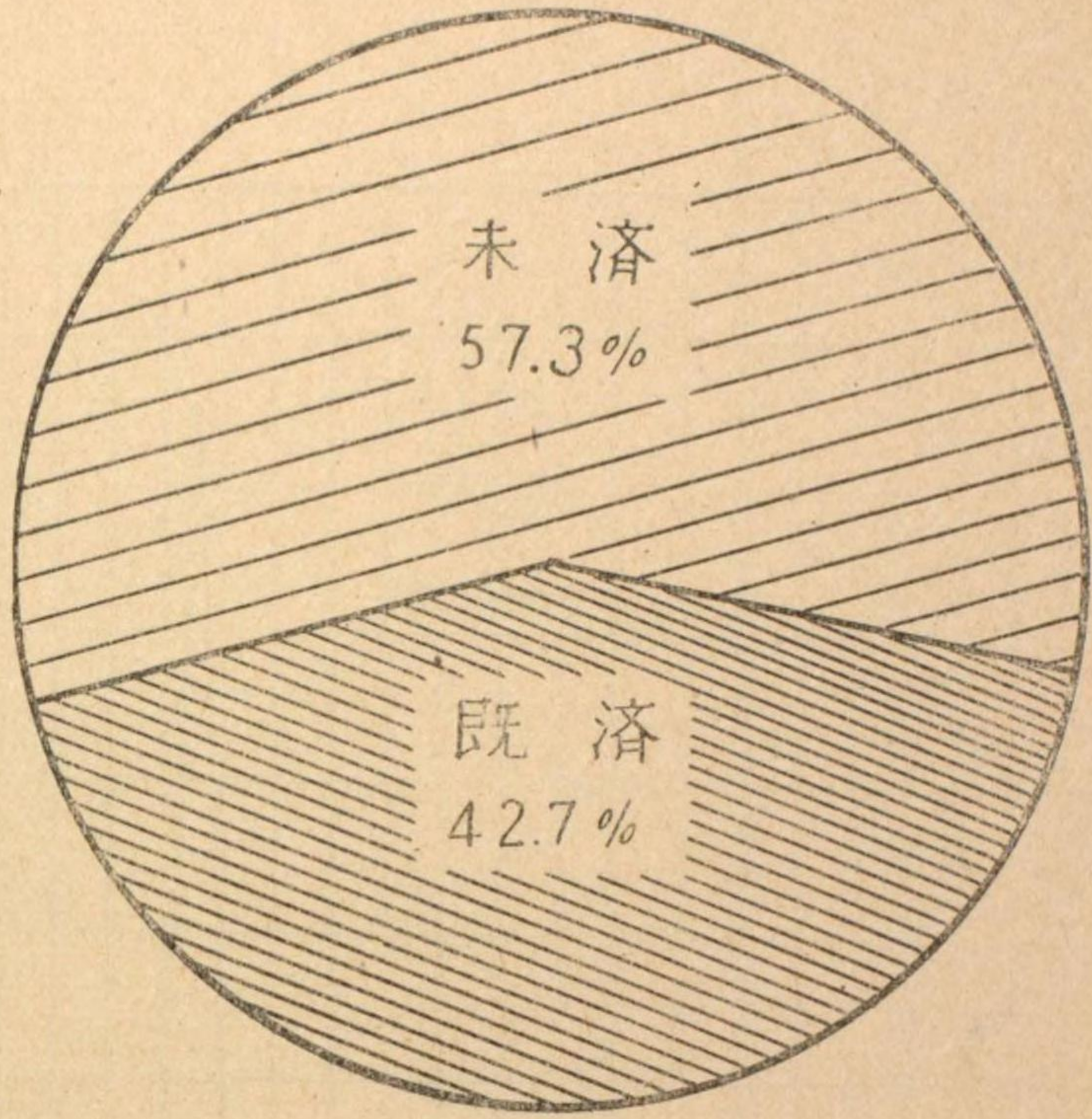
考 備

前年までの累計とは、昭和二十二年五月三日から昭和二十四年十二月末日までの累計を、累計とは、昭和二十二年五月三日から昭和二十五年十二月末日までの累計を、アラビヤ数字は原告数を、それぞれ示し、※印を付した数字は昭和二十四年度の未済を示す。

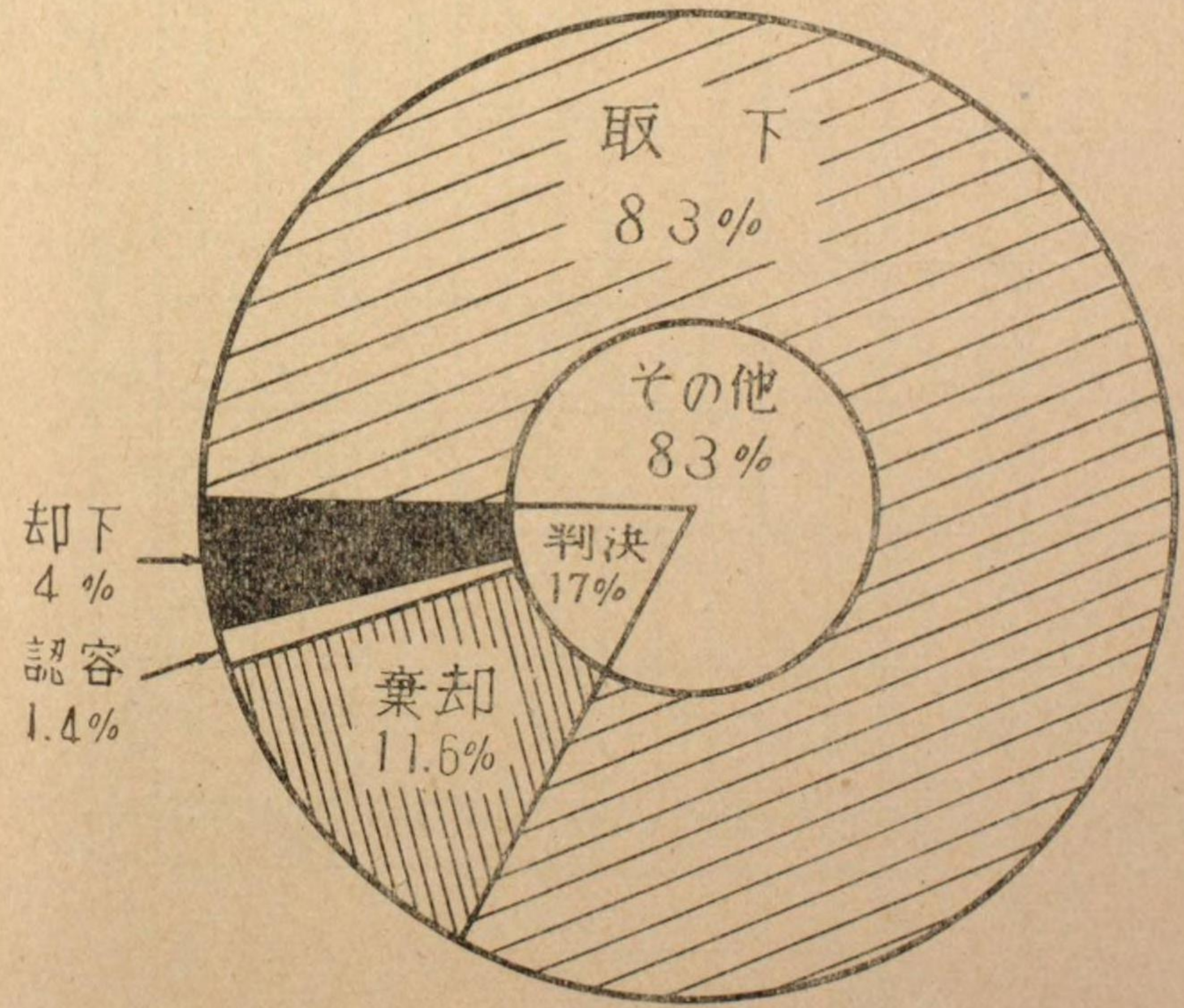
未済	既済
345	1627
一九四	一四二
一〇四	三
一〇五	七
二二四	一三
二〇九	一七
三〇五	九
三〇一	二〇
三〇三	八
三〇八	一五
二八一	五三
二八九	一〇
三九八	八
三九元	六
536	560
三九元	三三
536	2187
三九元	三六四

【4】 四 昭和二十五年年度分 税法関係行政事件件数比較図表

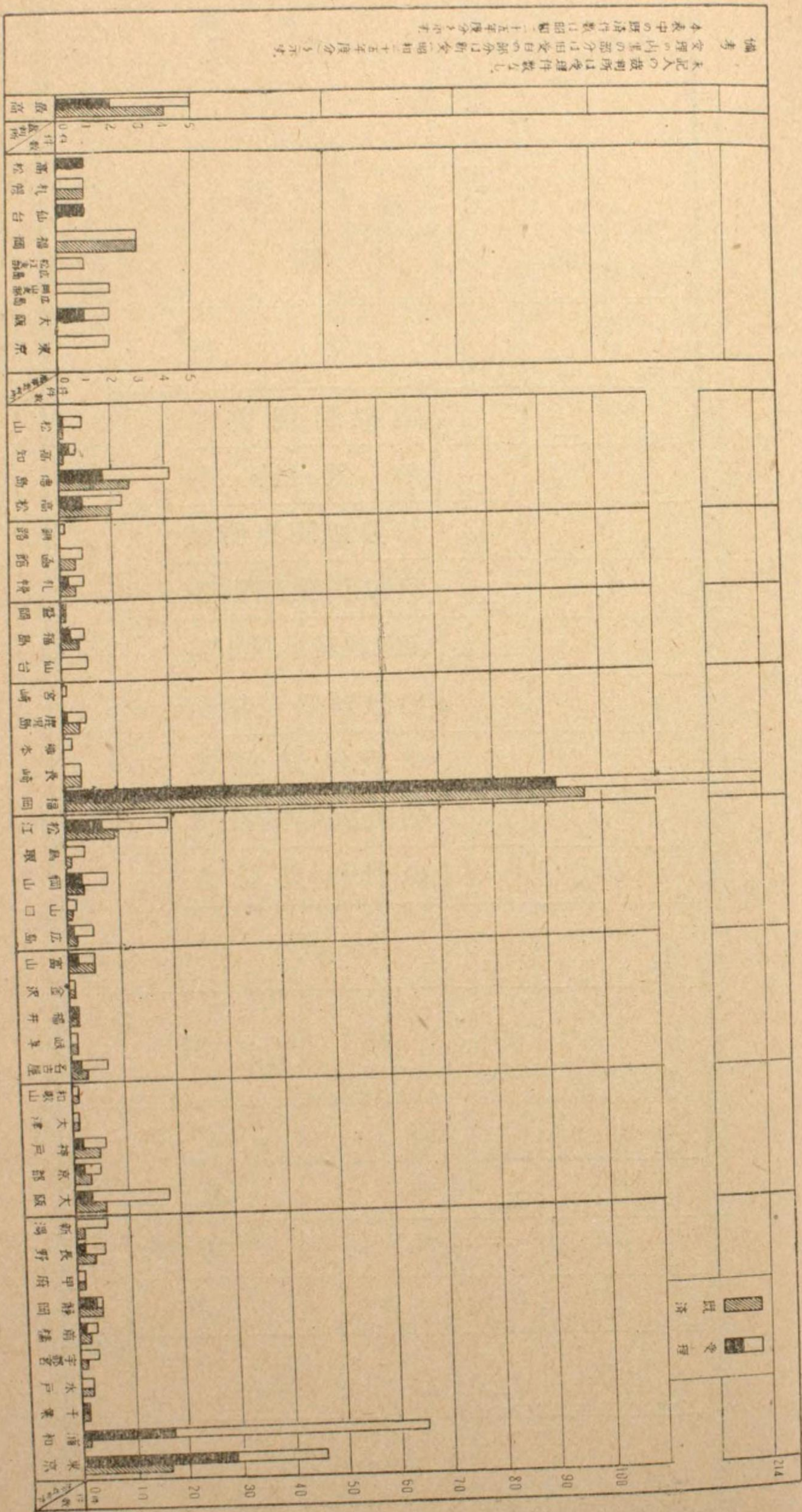
(イ) 受理総件数に対する既済未済件数の比較



(ロ) 既済理由別件数の比較



【4】 五 昭和二十五年年度分 税法関係行政事件裁判所別受理件数比較図表



最 受	東 京 高 等					受 理 お よ び 結 果 別 月		
	新 受	旧 受	未 済	既 済	理 計		新 受	旧 受
二		二七	二	四	四		計累のてま年前	
	二	二六	二	二六	一	二七	月 一	
	二	二七	一	二六	二	二八	月 二	
	二	二四	三	二七		二七	月 三	
一	二	二七		二七	三	二四	月 四	
	三	二六	一	二九	二	二七	月 五	
	三	三二		三二	三	二六	月 六	
	三	三〇	一	三二		三二	月 七	
	三	三三		三三	二	三〇	月 八	
	三	三四		三四	二	三二	月 九	
	三	三五		三五	一	三四	月 十	
	三	三五	一	三六	一	三五	月 一 十	
	一	三七	二	三九	四	三五	月 二 十	
一	二	三七	二	四六	二	二七	計	
三		三七	三	六九	六		計 累	

【5】

二 昭和二十五年分

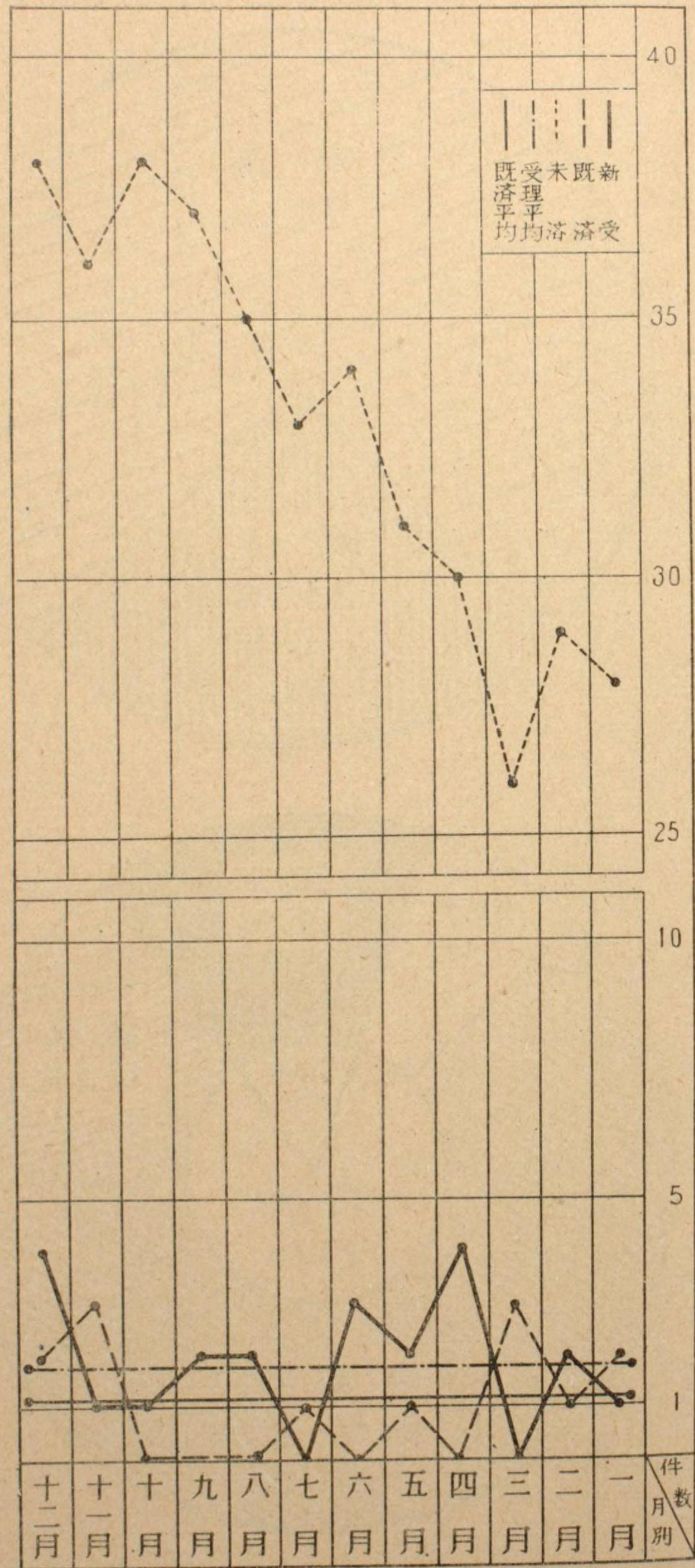
特許関係行政事件月別既済未済件数比較表

合 計	最 高	東 京 高 等	裁 判 所 別		受 理 お よ び 結 果	
			受 旧	新		受 理
元	二	二七	絶拒願出許特	認棄	判	既 決
九	一	八	効無許特	却	決	
一		一	認確田範権許特	下	取	済
二		二	絶拒願録登案新用実	下	取	
三		三	効無録登案新用実	計	合	未 済
六		六	絶拒願録登標商	計	合	
一		一	効無録登標商			
			絶拒願録登匠意			
			効無録登匠意			
三	一	三	計			
五	三	四	計			
二		二	容	認棄	判	既 決
八	二	六	却	却	決	
一		一	下	取	取	済
二		二	下	取	取	
三	二	二	計			
三	一	三	済			

【5】

一 昭和二十五年分

特許関係行政事件件数表



[5]

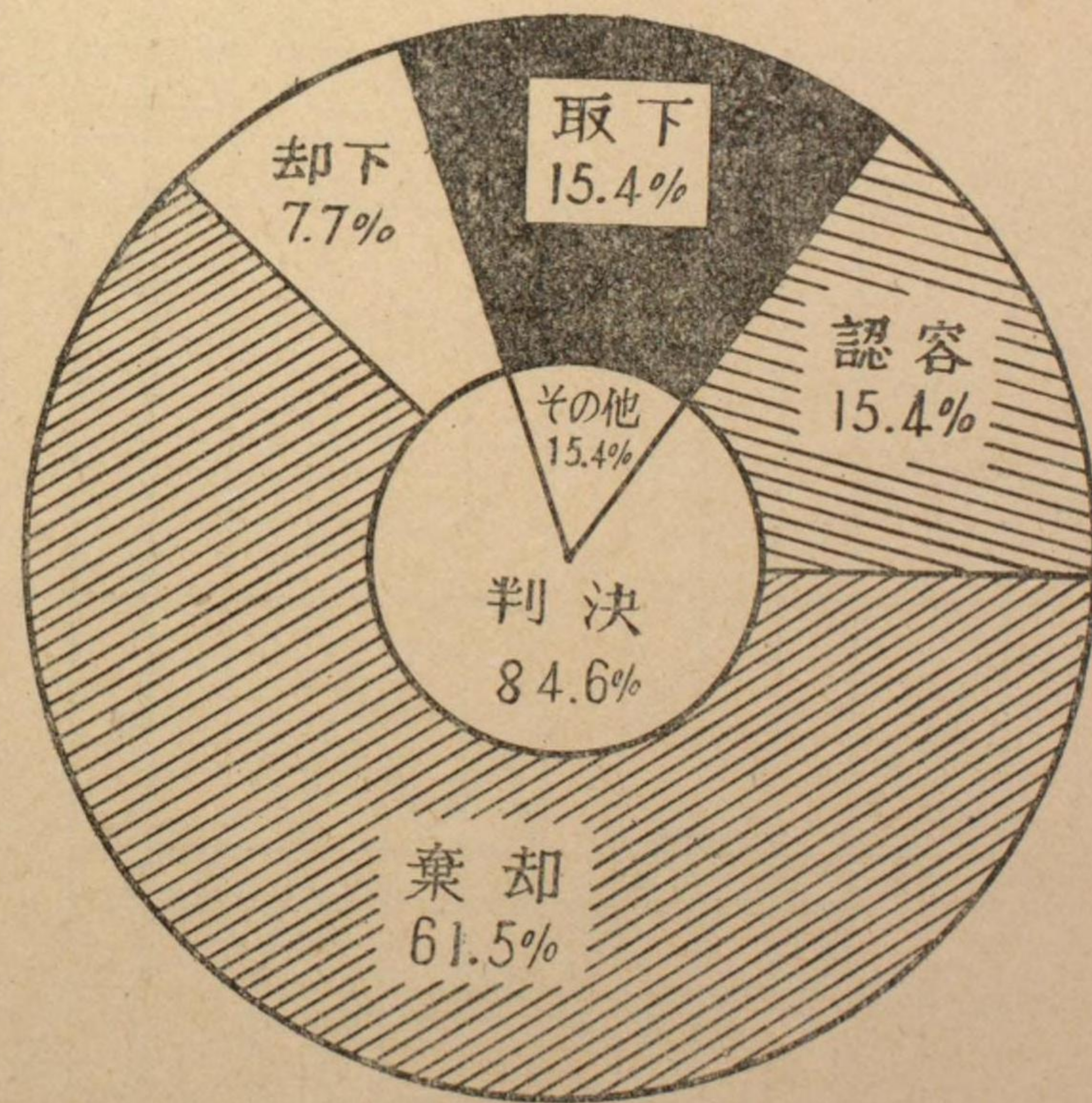
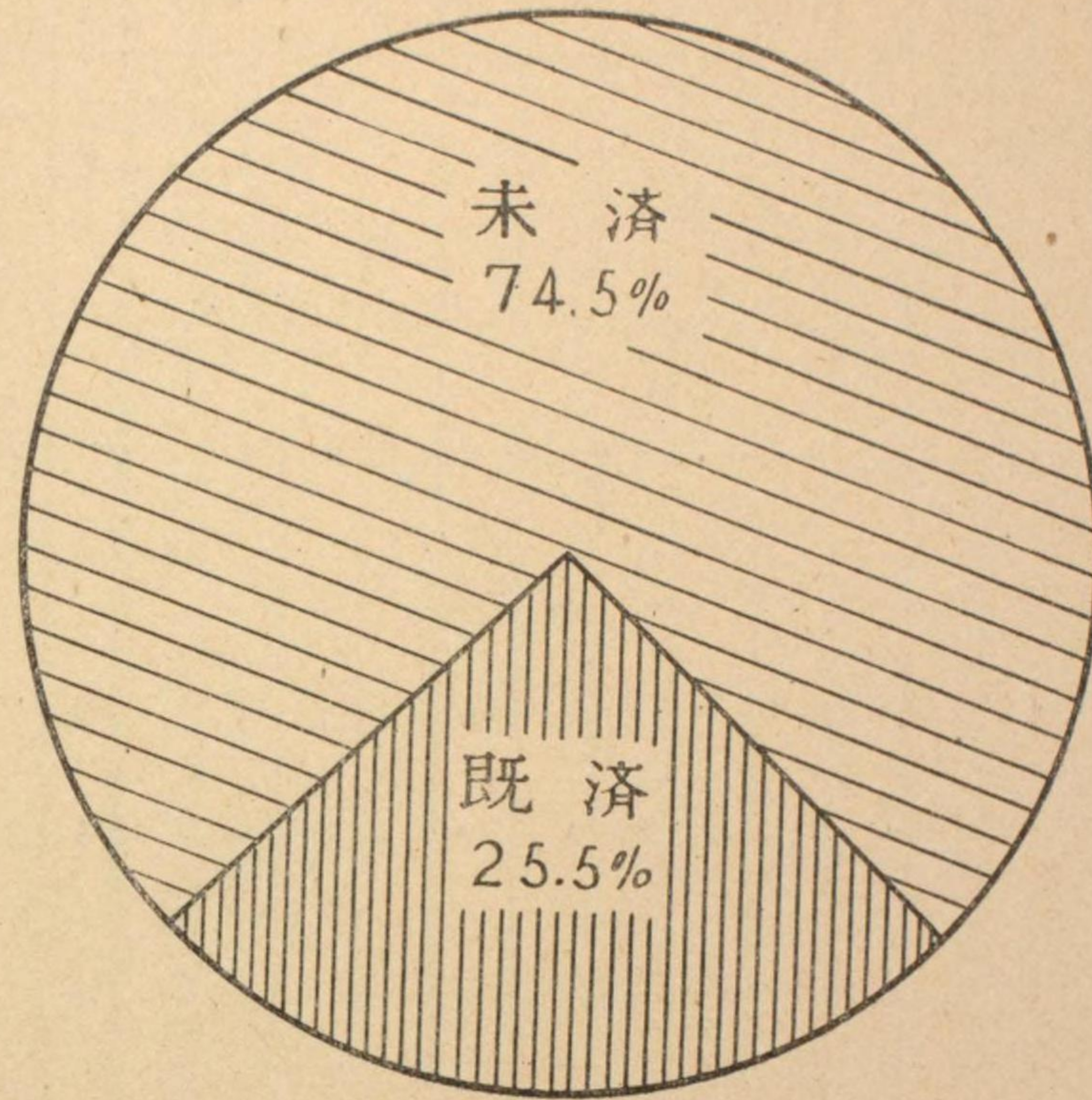
三 昭和二十五年分 特許関係行政事件月別既済件数比較図表

考備 本表中前年までの累計とは、昭和二十二年五月三日から昭和二十四年十二月末日までの累計を示し、累計とは昭和二十二年五月三日から昭和二十五年十二月末日までの累計を示す。

考備	計					合			高		
	未済	既済	理計	受		未済	既済	理計	未済	既済	理計
				新受	旧受						
	元	三	三〇	三	元	二	二	二	二	二	
	二八	二	三〇	一	元	二	二	二	二	二	
	元	一	三〇	二	元	二	二	二	二	二	
	二六	三	元		元	二	二	二	二	二	
	三〇		三〇	四	元	三	三	三	三	三	
	三	一	三二	二	〇	三	三	三	三	三	
	三四		三四	三	三一	三	三	三	三	三	
	三三	一	三四		三四	三	三	三	三	三	
	三五		三五	二	三三	三	三	三	三	三	
	三七		三七	二	三五	三	三	三	三	三	
	三八		三八	一	三七	三	三	三	三	三	
	三六	三	三九	一	三八	一	二	三	三	三	
	三六	二	四〇	四	三六	一	一	一	一	一	
	三六	一三	五二	三	元	一	二	三	三	三	
	三六	三四	七	七		一	二	三	三	三	

6] 昭和三十五年分 地方自治関係行政事件件数表

方	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	計
青森	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	11
秋田	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	11
計	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	22



【5】 四 昭和三十五年分 特許関係行政事件件数比較図表

(イ) 受理総件数に対する既済・未済件数の比較

(ロ) 既済理由別件数の比較

高 受	地 方					別 果 月		
	新 受	旧 受	未 済	既 済	理 計		新 受	旧 受
元		元	七	七	七		計累のてま年前	
二	三	元	三	三	四	元	月 一	
六	二	三	一	四	一	元	月 二	
二	三	四	二	六	六	三	月 三	
五	三	六	三	九	五	四	月 四	
二	七	七	五	三	六	六	月 五	
五	三	八	六	四	七	七	月 六	
	三	四	一	四	三	六	月 七	
二	三	四	一	五	三	四	月 八	
三	三	八	八	六	四	三	月 九	
二	三	四	三	三	五	六	月 十	
三	三	四	四	七	七	四	月 一 十	
三	三	三	一	五	九	三	月 二 十	
三	※三	三	六	九	七	※六	計	
六		三	一	一	一		計 累	

【6】

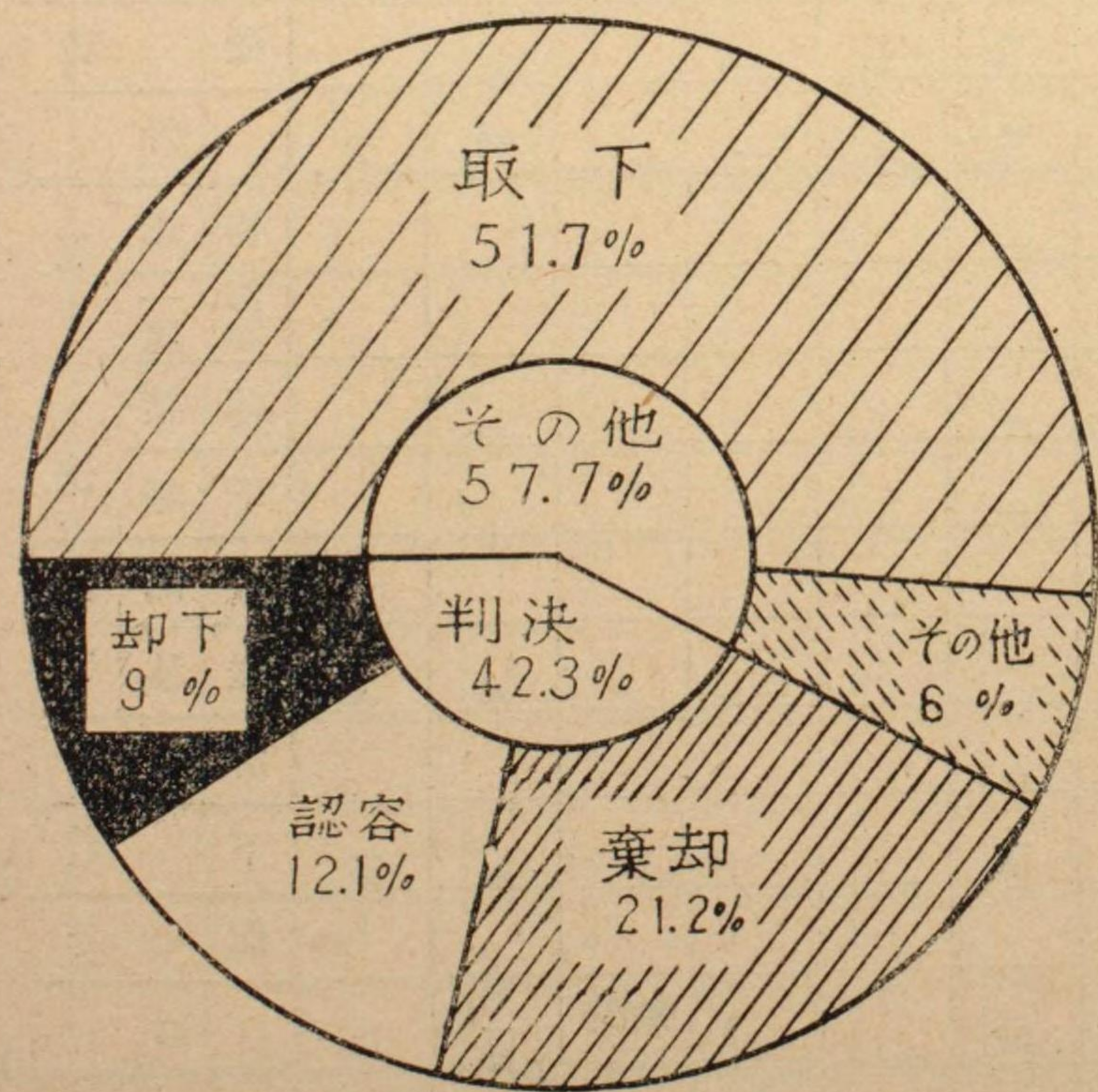
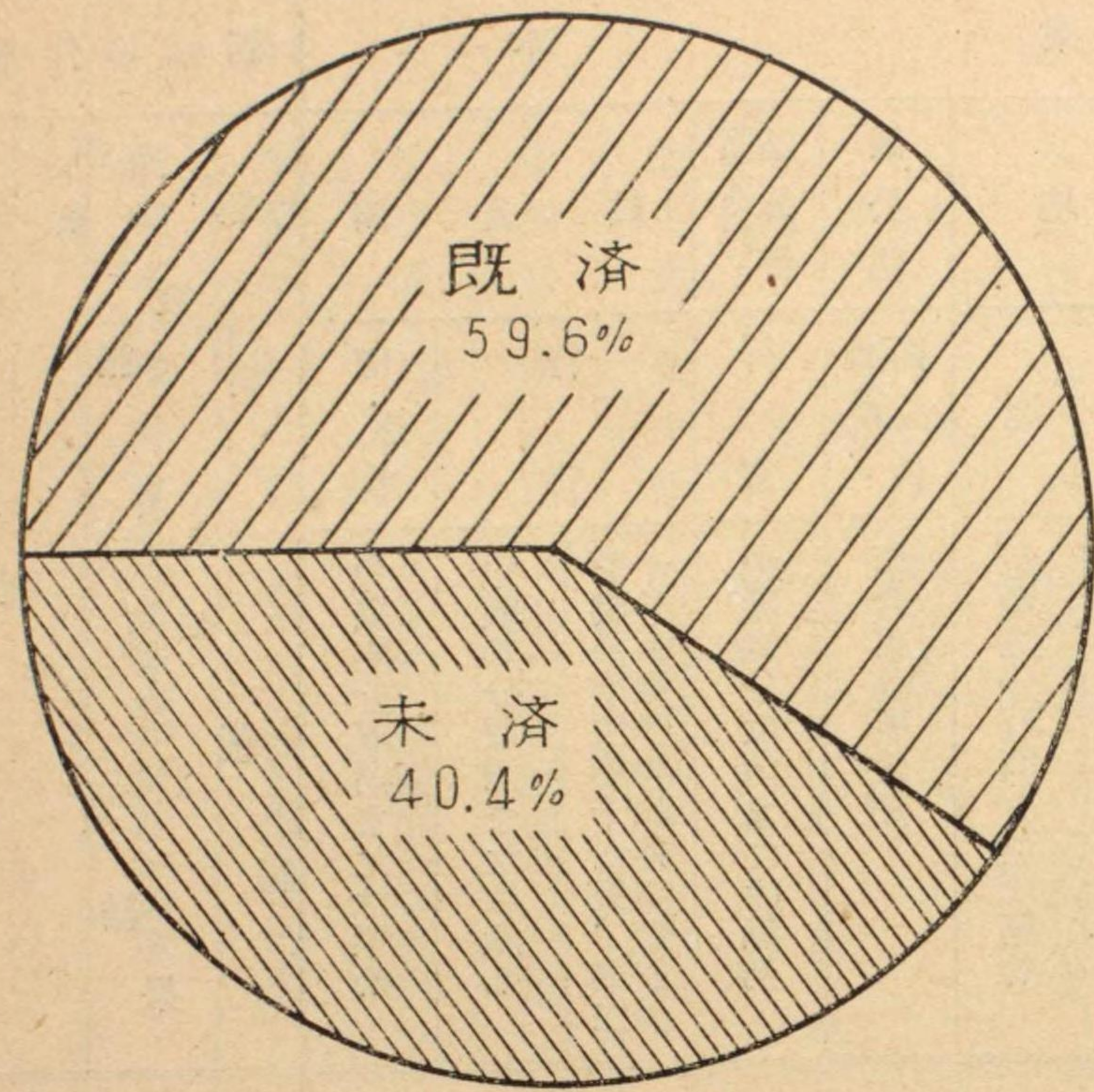
二 昭和二十五年分 地方自治関係行政事件月別受理既済件数比較表

計	合						高			最			等		
	既	理		受		未	既	理		受		未	既	理	
		計	新	旧	計			新	旧	計	新			旧	
既	済	計	受	受	済	済	済	計	受	受	済	済	計	受	受
五	四	一〇五	一〇五					一	一	一			三	六	二九
三		五七	六	五二									二五		二五
一〇		七二	一七	五四									三二		三二
四		七〇	九	六一			一	一	一				三三	一	三三
三		七六	一〇	六六									三七		三七
一三		八一	八	七三									三一	八	三九
一〇		八四	一六	六八			四	四	四				三二	四	三六
一		七七	三	七四			四	四		四			三二		三二
二		八二	六	七六			五	五	一	四			三三	一	三四
九		八七	七	八〇			五	五		五			三五	一	三六
七		八五	七	七八			五	五		五			三三	四	三七
八		八八	一〇	七八			五	五		五			三三	四	三六
二九		九六	一六	八〇			九	九	四	五			三五	一〇	三五
九九		一六六	一五	×五			九	一	一〇	一〇			三五	三三	五八
一五三		三三〇	三三〇				九	二	二	二			三五	三九	六四

考 備

本表中前年までの累計とは、昭和二十二年五月三日から昭和二十四年十二月末日までの累計を示し、累計とは昭和二十二年五月三日から昭和二十五年十二月末日までの累計を示す。
 本表中※印を付した数字は昭和二十四年度の未済を示す。

未	済	五二	五四	六二	六六	七三	六八	七四	七六	八〇	七八	七八	八〇	六七	六七	六七
---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

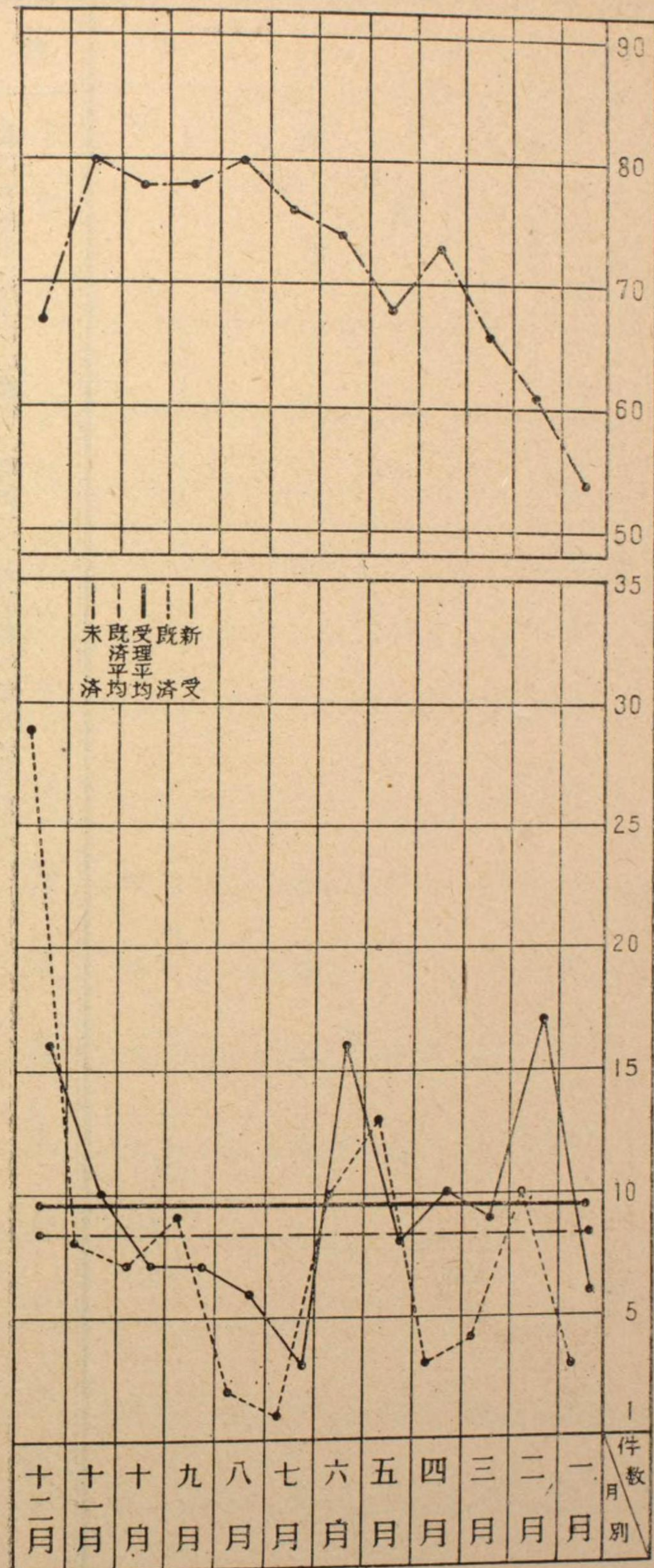


【6】

四 昭和二十五年年度分 地方自治関係行政事件件数比較図表

(イ) 受理総件数に対する既済未済件数の比較

(ロ) 既済理由別件数の比較



【6】

三 昭和二十五年年度分 地方自治関係行政事件月別既済未済件数比較図表

		分 処 假										
小	計	公 企 組			公 地			員 公 国		組 公		
		公企組	公企員	公企組	員 公 地	地 公 地	地 公 団	国 公 員	行 官	国 公 員	国 公 組	
		賃金等支払	解雇の効力停止	解雇の効力停止	組合員たる地位保全	組合決議の効力停止	解職の効力停止	解職の効力停止	組合役員職務執行停止	免職の効力停止	組合事務所使用	組合事務所使用
六			三	二						一		
一四	二	一		一	一	一	一	一			一	一
二〇	二	四	二	一	一	一	一	一	一			
一	一											
二	一	一										
一								一				
一							一					
七		二	二				一	一		一		
一三	二	三	二				一	一	一	一		
八		一					一				一	一

合

計

八三

九三

一七六

二

三

二

一

一

一五

三

四八

八五

九二

注 (1) 本表において原告および被告欄中行官・国公組・国公員・地公団・地公組・地公員・公企体・公企組・公企員・地労委とあるは、行政官庁・国家公務員職員組合・国家公務員・地方公共団体・地方公務員職員組合・地方公務員・公共企業体・公共企業体職員組合・公共企業体職員・地方労働委員会を示すものである。

(2) 本表中には、受訴裁判所により通常民事事件として取り扱われた事件も包含している。

【8】 昭和二十五年度分 一般行政事件裁判所別既受理未済件数比較表

(一般行政事件とは、農地、選挙、税法、特許、地方自治および労働関係事件を除いたその他の行政事件を一括したものである。)

前橋地方	宇都宮地方	水戸地方	千葉地方	浦和地方	横浜地方	東京地方	事件の種別		既受理	未済
							裁決	判決		
二	一	一	二		二	四	受	旧		
						二	喪得の籍国	新受理		
						一五	よお放追職公 体団散解び			
二					六	二	物建・地土			
						四	否許の業事			
							育教・術学			
							難 海	受		
							産生物産農 当割出供			
						二	業 漁			
一					三	三	他 の そ	理		
三		一	一	五	一〇	五	計			
五	一	二	三	五	二	一〇	計 受 旧新			
						九	容 認	既		
							容 認 部 一			
一						八	却 棄	決		
						四	下 却			
						一七	下 却 命	命 決		
							却 棄 定			
三		一	三	一	一	一八	下 取	取		
						一	他 の そ			
四		二	三	二	五	五七	計			
一	一			三	七	四	済			

静岡地方	甲府地方	新潟地方	大阪地方	京都地方	神戸地方	神戸路支部	大津地方	和歌山地方	名古屋地方	津地方	岐阜地方
二	一	五	六	一			一		二		一
三				二	二				二	二	
					二	一			二		
									一		
二	三	二	五	四	一			一			
五	四	四	一	八	一四	一	三	二	五	二	三
七	五	九	一七	九	一四	一	四	二	七	二	四
				一							
三		二	一	二	二				二	二	
一				九	一				三	二	一
				一							
四		三	五	一	二		一	二	五	二	四
三			五	四	二		三		二		三

計	行政事件訴訟年鑑									計	松山地方
	東京高等	大阪高等	名古屋高等	名古屋高等 金沢支部	松島高等 松江支部	福岡高等	仙台高等	高松高等	計		
二	一	一	一							一五〇	一六
六										二	
二七										五九	一
四	一									六八	五
一										二二	一
二										三	
										八	一
										五	一
三五										七二	
六五	一									三三七	九
八六	二									三八七	二五
八										一四	一
一五										一一	三
一四										五二	二
一四										二九	
六											
二										一〇三	七
一										七	一
六〇										七二九	一四
二六	二									一六〇	一一

注 未記入の裁判所は受理事件がない。

合	最
計	高
一七六	五
三三	六
一〇一	一五
七四	二
一三	
五	
二	二
八	
六	一
一〇〇	四
三三二	三〇
五〇八	三五
三三	
一	
三三	三
六六	
五〇	七
七	一
一一二	一
八	
二九	一三
一〇三	三三

附錄
文
獻
目
錄

文献目録

(昭和二五・二——至二六・三)

一 憲法

..... 五七

◇憲法一般..... 五七

◇憲法史..... 五八

◇憲法解説..... 五八

◇主権論..... 五九

◇天皇..... 五九

◇国民の権利義務..... 五九

◇国会..... 六〇

◇司法..... 六一

◇法律・命令・規則..... 六一

◇憲法改正..... 六二

◇比較憲法論..... 六二

二 管理法令

..... 六三

文献目録

五九三

三 行政法一般

..... 六〇五

四 行政組織

..... 六〇七

◇行政官庁・行政委員会

..... 六〇七

◇選挙

..... 六〇九

◇地方自治

..... 六一〇

◇公務員

..... 六一四

五 行政争訟

..... 六一六

六 行政作用

..... 六一八

◇国籍法

..... 六一八

◇公企業・公用負担・公用収用

..... 六一九

◇警察法

..... 六一九

◇税法

..... 六二二

◇農地

..... 六二六

◇経済統制・社会立法

..... 六二七

◇教育

..... 六三一

七 判例批評

..... 六三三

◇一般行政事件

..... 六三三

◇地方自治関係事件

..... 六三三

◇選挙関係事件

..... 六三三

◇農地関係事件

..... 六三五

◇租税関係事件

..... 六三七

一、憲法

◇憲法一般

(○印は単行本である)

書名または論文題	著者または筆者	発行所または掲載雑誌	発行人月日または掲載雑誌巻号
新しく法律を学ぶ人々のために —憲法—	中村哲	法律時報	二二卷四号
新憲法をめぐる人々の思い出	佐藤功	郵政時報	二卷五号
新憲法草案起草の思ひ出	入江俊郎	郵政時報	二卷五号
新憲法三年を顧みて	田中耕太郎	法政時報	二八号
新憲法 第四年	金森徳次郎	公務員	五卷五号
法のうごき世のうごき	宮沢俊義	法律タイムズ	四卷四号
法の適用と法の維持	佐々木惣一	公法雑誌	一一卷二号
戦後憲法学会の展望	依中静夫	公法研究	二号
法治国家の概念と基本構造	田中裕	法學	一四卷二号
朝鮮動乱と憲法の前途	佐藤功	改造學	二五年一〇月号
○近代国家論第一部 権力	蠟山政道・堀豊彦 加藤新平・中村哲	弘文堂	二五年五月
○国家と政治との必至的關聯	田畑忍	京都三和書房	二一年

権力分立制序説
日本国憲法における三権分立の諸問題

清宮四郎 公法研究 三三
佐藤功 公法研究 三三

◇憲法史

○法律学体系第二部第三七・五五・一一
一日本憲法史
日本における絶対王政の成立と明治維
新当時の会議制について

鈴木安蔵 日本評論社 二五年
岡本清一 同志社法学 五号

◇憲法解説

日本国憲法の制定
日本国憲法成立の過程に関する二、三
の事実と理論

佐々木惣一 公法雑誌 一一卷一号
佐々木惣一 法学論叢 五七卷二号

○新しい憲法——国民生活の指針——

林信雄 評論社 二五年六月

○憲法入門

大石義雄 勁草書房 二五年六月

○憲法序説

宮沢俊義 勁草書房 二五年六月

○日本国憲法要綱

田畑忍 京都三和書房 二四年

日本国憲法の一般的理解

大野盛直 東京関書院 二五年

主権論

佐々木惣一 法律文化 五卷一・二号

日本国憲法第一条

佐々木惣一 自治研究 二六卷四号

事実としての主権と当為としての主権

尾高朝雄 国家学会雑誌 六四卷四号

主権概念について

尾形典男 思想 三一五号

国会主権論

山本浩三 同志社法学 五号

◇天皇

○天皇——天皇統治の史的解明

石井良助 弘文堂 二五年六月

天皇象徴論の根本問題

佐藤功 法律タイムズ 四卷七号

日本国憲法第三条

佐々木惣一 自治研究 二六卷九号

日本国憲法第四条

佐々木惣一 自治研究 二六卷五号

◇国民の権利義務

基本的人権の保障——その限界論につ
いて

田中二郎 自治研究 二六卷二号

基本的人権と公共の福祉

田畑忍 法律文化 五卷一・二号

基本的人権と公共の福祉(1)(2)

戒能通孝 法律時報 二二卷一号

——それに関する諸家の説について——

柳瀬良幹 法学 一四卷二三号

自由と公共の福祉との関係について

洪佐寿平 日本弁護士連合会誌 一卷八号

個人的自由と社会的統制

石上良平 思想 三一五号

法の前の平等
 法的平等の権利と生活規則無差別の権利
 憲法と婦人
 日本国憲法と勤労権
 伊藤正己 国家学会雑誌 六四卷一号
 佐々木惣一 公法雑誌 一一卷二号
 松尾トシ子 郵政時報 二卷五号
 森順次 法律文化 五卷一・二号

◇国会

国会主義の根本問題
 国会をめぐる最近の法律問題
 国会の権限
 憲法の生態——議員の国会召集権と議院の国政調査権——
 会期不継続審理
 解散と憲法の規定(完)
 弾劾疑義
 弾劾裁判所とはどんなところか
 わが国の委員会制度と特別委員会の性格
 考査特別委員会の諸問題
 アメリカ議会委員会
 山本浩三 同志社法学 三卷一号
 吉村正一 法律タイムズ 四卷一号
 奥野健一 法律タイムズ 三卷一号
 桜田与 人文科学論集 三卷一号
 宮沢俊義 法律のひろば 三卷一号
 加藤泰守 農林行政研究 二卷一号
 入江俊郎 法律時報 二二卷二号
 柳瀬良幹 自治研究 二六卷一号
 隈井亭 法律のひろば 三卷一号
 鈴木隆夫 法律時報 二二卷九号
 齊藤秀夫 法律時報 二二卷九号
 鵜飼信成 法律時報 二二卷九号
 今村忠助 法律時報 二二卷九号
 柏木一郎 公正取引 七号

◇司法

アメリカの民主主義政治に学ぶ
 ——アメリカ議会を見学して——
 セーラー調査委員会の活動について(1)
 憲法裁判所論
 司法と政治
 司法権と教育権の独立について
 最高裁判所の憲法裁判
 違憲法令審査権の効力
 違憲審査権
 法的安定性の観点から——
 最高裁判所は法律を変更して居ないか
 いわゆる誤判事件とこれをめぐる諸問題
 誤判と裁判官の責任
 弁護士法解説(4—7)
 アメリカの弁護士会の弁護士
 アメリカの法学教育——(帰米所感)
 アメリカ合衆国最高裁判所法廷見たま
 の記
 林田和博 法制研究 一七卷
 一、二、三、四号
 田中耕太郎 法律のひろば 三卷四号
 佐々木惣一 公法雑誌 一一卷一号
 加藤正治 法学新報 五七卷一号
 早川武夫 法律文化 五卷一・二号
 横山市治 日本弁護士連合会誌 一卷七号
 野間繁 法律新報 七五六号
 塚崎直義 日本弁護士連合会誌 一卷一号
 福原忠男 日本弁護士連合会誌 一卷七・八号
 近藤綸二 法律時報 二二卷一・二号
 近藤綸二 判例タイムズ 二二卷一・二号
 内藤頼博 判例タイムズ 二二卷一・二号

◇法律・命令・規則

○最高裁判所の規則制定権と法律との関係

法律と命令

○法制執務提要

法令の立案・制定・実施

◇憲法改正

憲法改正論議の基本問題

◇比較憲法論

○米 国 憲 法 講 話

フランス共和憲法(1946)戦後の世界新憲法の概観

ドイツ連邦共和国基本法(1949)戦後の世界新憲法概観

東 独 憲 法 の 全 文(1-2)

東欧諸国憲法の基本原理

主としてブルガリア及びユーゴ

ー スラヴィア

イタリヤ共和国憲法(1940)

戦後の世界新憲法の概観

国立国会図書館調査 東京国立国会図書館 二四年六月

林 修 三 法律のひろば 三卷八号

佐藤 達夫 東京学陽書房 二五年

佐藤 功 国家学会雑誌 六四卷二三号

橋本 公 互 東京東洋書館 二四年

宮 沢 俊 義 公 法 研 究 二 号

田 中 二 郎 公 法 研 究 二 号

外務省調査局 エコノミスト 二八・二九号

鈴木 安 蔵 公 法 研 究 二 号

宮 沢 俊 義 公 法 研 究 二 号

山之内 一郎 公 法 研 究 二 号

田 上 穰 治 公 法 研 究 二 号

綿 貫 芳 源 世界資料 四・五号

綿 貫 芳 源 国家学会雑誌 六四卷 五・六号

小 島 和 司 公 法 研 究 三 号

森 義 宣 公 法 雜 誌 一 一 卷 一 号

高 橋 貞 三 同志社法学 五号

自治領統計局編 国 会 三卷六号

二、管理法令

書名または論文題

占領下日本の法律改革(一)(二)

○日本管理法令研究 29、30、31、32号

○日本占領の使命と成果 共同通信社渉外部訳

著者または筆者

アルフレッド・C・オプラー

横 田 喜 三 郎

連合国総司令部編

発行所または掲載雑誌

法律タイムズ

有 斐 閣

板 垣 書 店

発行年月日または掲載雑誌巻号

四卷二・三号

二五年六月上旬

間接管理方式下における指令の法的性格と解雇の正当との関係

新聞報道関係に関する東京地方仮処分決定

連合国側によつて書かれた日本管理に關する三著

民政移管の経過

ドイツ民政移管の研究

民政移管の方式

ドイツ民政移管の研究

日本管理資料

ポツダム緊急勅令の合意性

追放と日本の裁判権

公職追放処分と裁判権

公職追放実務提要

団体等規正令について

公職追放と裁判権

国民と判決

高木右門 労働法律旬報 二五年一〇月三五号

佐藤功 政治経済論叢 二五年六月一卷三号

高野雄一 日本管理法令研究 二九号

横田喜三郎 日本管理法令研究 二九号

外務省政務局特別資料課 法学研究 二三卷六号

吉田常次郎 法学新報 五七卷五号

布施辰治 人民の法律 四号

千種遠夫 法律時報 二二卷九号

雄川一郎 自治研究 二六卷一〇号

内閣総理大臣官房監査課 東京 芹田東光社 二五年二月

吉橋敏雄 法律時報 二二卷一〇号

矢崎憲正 法律のひろば 三卷四号

三、行政法一般

書名または論文題

著者または筆者

発行所または掲載雑誌

発行年月日または掲載雑誌巻号

新しく法律学を学ぶ人々のために

雄川一郎 法律時報 二二卷四号

行政法講義案(中巻)

田中二郎 有斐閣 二五年六月

行政法大意

田中二郎 勁草書房 二五年五月

行政法の基本原理

田中二郎 勁草書房 二五年六月

行政法上の巻

田中二郎 東京良書普及会 二五年四月

行政法要議上・下

杉村章三 有斐閣 二五年三月

行政法の基本問題

杉村章三 勁草書房 二五年二月

行政法総論

田上穰治 東京春秋社 二五年四月

行政法論

柳瀬良幹 東京角川書店 二五年六月

行政法講義案(総論・各論)

杉村敏正 京都三和書房 二五年

日本行政法概論

松本米治 京都三和書房 二五年

行政法要綱上巻

穴戸基男 東京新警察社 二三年

行政法講義序論

蠟山政道 日本評論社 二五年五月

行政法

有倉遼吉 評論社 二五年六月

○行政法要説

新憲法と行政関係の法律
英米型行政法の進展
行政法に関する学説の判例総合研究について

玉村兵三郎 立花書房 二五年三月

蠟山政道 法律のひろば 三卷五号

杉村章三郎 法律タイムス 四卷七号

田中二郎 自治研究 二六卷一〇号

原龍之助 公法研究 二号

高根義三郎 法學新報 五七卷一〇号

田中正雄 民商法雜誌 二五卷四号

長浜政寿 郵政時報 二卷六号

雄川一郎 法學協會雜誌 六八卷四号

山田幸男 法律時報 二二卷七号

田上穰治 自治研究 二六卷八号

中谷敬寿 都市問題研究 九号

原龍之介 季刊法律學 八号

園部敏 法と經濟 一一二号

田中二郎 国家學會雜誌 六四卷二・三号

法律による行政
政治的に考へて
先決問題について
行政行為に対する裁判所の審理権
自由裁量の觀念について
公法理論における実体法と手続法の関連
民主行政における権限の調整
国政事務と自治事務との配分調整について
行政上の共助—行政機関の「実力による応援」
損失補償の要点をめぐる二、三の問題—
公共福祉の実現と私有財産制の保障—

地方公務員の賠償責任について
英米の行政法について
合衆国行政手続法について
合衆国行政手続法について(上)

高橋隆治 監査 二五年五月四号

高橋貞三 公法雜誌 一一卷一号

鶴飼信成 国家學會雜誌 二五年四月六四卷四号

鶴飼信成 法律タイムス 二五年一〇月四卷九号

杉村敏正 法學論叢 五七卷二号

亀川清 司法研究所 二五年七月

三ツ木正次 法務府法制意見第四局 二五年一月

○準司法機関に関する研究
(裁判所からみた行政法の基本問題)
ランデイス・行政手続(法務資料)

○バウア著「聯邦行政法」
(F. Trowbridge vom Baur: Federal Administrative Law, 1942)

四、行政組織

◇行政官庁・行政委員会

書名または論文題

著者または筆者

発行所または掲載雑誌

発行年月日または掲載雑誌巻号

行政機構の改革原理

蠟山政道 公務員 五卷六号

行政機構改革の基本問題

杉村章三郎 建設時報 二卷一号

行政機構の改革について
—審議会答申を中心として—

岡田良一 建設時報 二卷一号

改革された行政機構の解説
 行政機構簡素化の問題
 国の地方出先機関の存在性格
 国家行政組織法第一六条による異議の
 申出について
 英米の中央行政機構について
 アメリカにおける公社の組織法
 行政委員会と権力分立論
 —アメリカにおけるその司法的解
 決の方向—

地方行政調査委員会議の誕生
 地方行政調査委員会議の使命
 地方行政委員会の発足とその性格
 地方財政委員会の発足とその使命
 北米合衆国の規制委員会特に州際商事
 委員会について

○米国における公益事業委員会の概観

マックドウェル委員会

—官吏制度の能率化と民主化に寄せ

て—

新しい審判規則の内容
 —アメリカF.T.C.の事件処理機構—

公正取引委員会とは

—その組織と権限—

民事裁判権と公正取引委員会の権限と
 その関係

公取の審判官制度について

—公正取引委員会審判規則—

—国際契約の処理をめぐって—

—審判手続の概要上

—公取の審判はどのように行われる
 か—

◇選挙

公職選挙法概説
 ○公職選挙法
 ○公営選挙法概説
 ○註解公職選挙法
 ○公職選挙法解説
 公職選挙法について
 公職選挙法の骨子
 公職選挙法のはなし

文献目録

公務員編集部 公務員 五卷七号
 中川融 自治時報 四卷四号
 木下丹 都市問題研究 一三号
 堀家嘉郎 自治時報 三卷一号
 鮎川幸雄 建設時報 二卷五号
 松本米治 調査月報 二九卷一〇号
 和田英夫 公法研究 三号

佐久間彊 自治研究 二六卷一号
 神戸正雄 都市問題研究 四一巻一号
 柴田護 自治研究 二六卷八号
 柴田護 自治時報 三卷七号
 太田三郎 公正取引 二五年三月

国立国会図書館調査
 立法考査局 東京国立国会図書館 二五年三月

足立忠夫 法学論叢 五七卷二号

倉持弘 公正取引 四号

竹中喜満太 公正取引 四号

横田正俊 公正取引 三号

寺岡卓夫 財政経済弘報 一九三号

浅羽満夫 公正取引 六号

坪田康・後藤進 公正取引 七号

金丸三郎 法律時報 二二卷五号

三浦義男 東京羽田書店 二五年四月

竹谷源太郎 東京日本産業新聞社 二三年

衆議員法制局
 川口頼好・大島笙・大井民雄 国際公論社 二五年五月

菊井三郎 警察図書出版株式会社 二五年三月

皆川迪夫 自治研究 二六卷五・九号

三浦義男 国会 三卷五号

菊井三郎 法律のひろば 三卷五号

公職選挙法改正の意義	吉岡	一	日本週報	一四九号
選挙法改正の要点	吉岡	一	自治時報	三卷一号
参議員通常選挙と選挙法の改正	金丸	三郎	自治公論	一七卷二号
参議院通常選挙と公職選挙法	金丸	三郎	自治時報	三卷七号
参議院議員通常選挙を顧みて	岡崎	格	自治研究	二六卷七号
参議院議員選挙を通じて公職選挙法を見る	岡崎	格	法律のひろば	三卷八号
新選挙運動および取締の対象	杉山	逸男	警察研究	二一卷五号
当選訴訟と選挙訴訟	大島	笙	日本法学	一六卷三号
公職選挙法上の争訟について	福原	弘夫	判例タイムズ	一卷五号
公職選挙法と収容者の地位	横井	克己	警察研究	六一卷七号
政治資金規正法第二五条(公職選挙法一八六条)の解決について	横井	克己	警察研究	二一卷七号
○英国各政党の選挙宣言	調査立法会図書局		東京国立国会図書館	二五年六月
——総選挙に対する——				

◇地方自治

憲法と地方自治	入江	俊郎	法律文化	五卷一・二号
——国会と地方自治——	佐藤	遠夫	自治公論	一七卷五号
地方特別法をめぐる若干の話題	佐藤	遠夫	自治時報	三卷七号

第七国会を通過した地方自治特別法
変貌する地方自治の諸問題 (座談会)

○地方自治法

地方自治の歩みとゆくえ	馬場	正義	京都鴨文社	一八年
○逐条地方自治法提議	鈴木	俊一	自治研究	二六卷一号
地方自治法の改正について	入江	俊郎等	良書普及会	
地方自治法の一部改正法律の解説	高辻	正己	自治研究	二六卷六号
地方自治法の一部改正について	降矢	敬義	自治公論	一七卷七号
地方自治法の一部改正について	降矢	敬義	建設時報	二卷七号
地方自治制度改革の盲点	小島	憲	都市問題研究	一三号
地方自治制度の機能的展開	小林	与三	自治時報	三卷一号
地方問題の焦点(座談会)	郡祐	一外六名	公務員	五卷三号
行政分権の基準	吉富	重夫	都市問題研究	八号
——実体的考察——	鈴木	俊一	建設時報	二卷一号
シヤウプ勘告と地方自治の進展	鈴木	俊一	自治研究	二六卷六号
シヤウプ勘告の実現に寄す(2)	森美	智雄	自治研究	二六卷六号
——国政と地方自治との関係に関連して——	森美	智雄	自治研究	二六卷六号
地方行政の動向	原龍	之助	法律タイムズ	四卷九号
——シヤウプ勘告と行政事務再配分の方向	原龍	之助	法律タイムズ	四卷九号
生活としての地方自治	岸	昌	自治研究	二六卷二号
——わが国地方自治の性格——	岸	昌	自治研究	二六卷二号

地方自治の確立方策の問題点
— シャウプ勅告における事務配分をめぐって —

地方行政の概観

地方行政改革の方向

○都市政

都市自治の確立とシャウプ勅告

市民社会と都市行政

市政を語る(座談会)

地方公共団体の規模合理化

地方公共団体の権能及び事務について

府県と市町村の関係について

地方公共団体に対する国の関与

— 行政事務の再配分との関係において —

地方自治体に対する国家の立法的関与の問題

「地方自治と国家関与」をめぐる座談会

地方公共団体に対する国家関与の方式

地方自治団体管業行政改革の方向

— 権限配分を中心とする一考察 —

市営企業行政における国家関与の方式

長野士郎 自治時報 三卷三号

萩田保 自治時報 三卷一号

蠟山政道 都市問題研究 八号

弓矢七郎 広文社 七号

平田正二 都市問題研究 四一巻二号

西島芳二 都市問題研究 三卷一〇号

高田富与 他七名 自治時報 三卷一〇号

鈴木俊一 都市問題研究 一三三号

中谷敬寿 公法雑誌 一一巻二号

佐藤功 都市問題研究 一三三号

依静夫 都市問題研究 一二号

高橋貞三 都市問題研究 一二号

蠟山政道 外四名 都市問題研究 一二号

吉富重夫 都市問題研究 一一号

竹中龍雄 都市問題研究 九号

竹中龍雄 都市問題研究 一一号

市会議員の言動と市議会の懲罰決議
— 飯塚市税暴露事件の控訴判決 —

○地方議会議規則逐条示解

直接請求制度の改正

助 町村自治におけるその地位

— 地方行政調査会議は何を為すべきか —

地方自治と監査制度

監査委員制度における諸問題

地方自治法の一部改正法律案中の監査委員会の改正点

地方自治法の一部改正と地方公共団体の監査及び出納

○地方自治法精義(下巻)

市吏員の休職処分

○地方自治と行政訴訟

地方自治と予算

改正地方税制と地方自治の将来

最近における米国地方行政改革の動向

アメリカにおける地方制度

— アメリカの地方自治制度を語る(座談会) —

青柳盛雄 労働法律旬報 二五年一〇月

重村実治 京都法律文化社 二五年五月

高辻正巳 自治研究 二六卷七号

河中二講 自治研究 二六卷八号

吉川末次郎 自治時報 三卷三号

蠟山政道 法律時報 二二卷八号

長野士郎 監査 三三三号

宮本義雄 監査 四四号

降矢敬義 会計検査と監査 一卷六号

金丸三郎 春日出版社 二五年三月

松岡三郎 自治研究 二六卷一〇号

山本悟外 東京港出版合作社 二四年九月

大村襄治等 東京港出版合作社 二五年三月

萩田保 自治時報 三卷九号

山本正太郎 法律タイムズ 四卷九号

杉村章三郎等 自治研究 二六卷八号

神戸正雄 外五名 自治時報 三卷七号

アメリカの地方行政について	生方誠	自治公論	一七卷一〇号
アメリカにおける州と地方との法律関係	吉富重夫	都市問題研究	一二号
アメリカ合衆国の市政綱領	小倉庫次	都市問題	四一卷一号
ニューヨーク市の行政 (1)	小倉庫次	都市問題研究	四一卷三号
アメリカの行政と政治	レイ・ショセフ・M	自治研究	二六卷四号
テネシー河域公社(TVA)の南部 地方行政に与えた影響について	辻清明	法律時報	二二卷六号
フーバー委員会の行政改革案	藤井貞夫	公務員	五卷七号
アメリカ地方行政の印象	吉川末次郎	自治研究	二六卷一号
英国労働党の地方行政 (1)	須貝脩一	都市問題研究	一三号
英国における特別市制	山崎時彦	都市問題研究	七号
J・Hウオレン著「英国地方自治制度論」	福島正夫	法律時報	二二卷一〇号
ソヴィエトの地方制度 (2完)			

◇公務員

国家公務員法における民主主義の原則について	島四男雄	公務員	五卷三号
国家公務員法における民主主義の原則について	岩佐忠哉	公務員	五卷五号
日本国憲法第二八条の基本的人権と公務員との関係	高村晋	松山商大論集	一卷二号

新しい公務員	蠟山正道	東京社会思想研究会 出版部	二五年二月
公務員の今と昔	金森徳次郎	公務員	五卷三号
国家公務員法を修正せよ	永岡光治	公務員	五卷六号
任用制度概論	岡部史郎	公務員	五卷一号
過去一年における国家公務員の任用制度の 変革	鶴海良一郎	自治時報	三卷一号
公務員について	鶴山政道	自治研究	二六卷一号
公務員制度の理論的基礎	国井成一	警察研究	二二卷六号
公務員の服務と人事院規則 (1)	岡部史郎	公務員	五卷二・三号
国家公務員法における懲戒制度の特色	園部敏	郵政時報	二卷九号
公務員の懲戒の法律的意义	浅井清信	法律タイムズ	四卷七号
公務員と労働法	佐伯静治	労働法律旬報	三五号
公務員の組合法の限界	鶴海良一郎	官業労働	四卷九号
愛知県職組事件の再審棄却さる	水野正之	公務員	五卷九号
職員団体の交渉権限所有者について	人事院	労働法律旬報	五卷四号
国家公務員の苦情処理について	人事院	人事院月報	一卷六号
人事院に対する審査請求とその闘争方法	角田礼次郎・宮沢弘	公務員	五卷七・八号
職員の意に反する不利益処分の審査制度	角田礼次郎	公務員	五卷九号
地方公務員制度の概説 (1・2完)			
地方公務員制度の概説 (3)			

地方公務員制度の概説(4)	宮沢弘	公務員	五卷一〇号
地方公務員案の基礎精神	杉村敏正	都市問題研究	七号
地方公務員実務必携	伊藤利男	第一法規出版	
地方公務員の政治行為の制限と労働法規について	鈴木俊一	公務員	五卷一号
地方公務員の不当解雇と管轄裁判所	松岡三郎	労働経済旬報	二五年六月九二号
人事院規則注解	相川清治等共著	東京海口書店	二五年二月

五、行政争訟

○民事訴訟法学概説	野間繁	東京巖松堂	二五年二月
○保全訴訟仮差押仮処分	柳川真佐夫	東京東洋書館	二五年三月
行政争訟の法理(四)完	田中二郎	法学協会雑誌	六八卷一号
先決問題について(1)行政行為に対する裁判所審理権	雄川一郎	法学協会雑誌	六八卷二号
行政訴訟の可能な場合とその手続	青柳盛雄	労働法律旬報	七・八号
行政処分における違法性の承継(1)	藤田晴子	自治研究	二六卷一〇号
最近学説判例の総合研究	橋本公亘	法学新報	五七卷六号
行政処分の執行停止を求める仮処分申請と行政事件訴訟特例法第十条第二項の執行停止			

新しい審判規則の内容 アメリカF.T.C.の事件処理機構

審判手続の概要(上)	倉持弘	公正取引	四号
公取の審判はどのように行われるか	坪田康・後藤進	公正取引	七号
当選訴訟と選挙訴訟	杉山逸男	日本法学	一六卷三号
公職選挙法上の争訟について	大島笙	判例タイムズ	一卷五号
○地方自治と行政訴訟	山本悟外	東京港出版合作社	二四年九月
滞納処分とその救済	杉山宗六	税経通信	
租税の行政訴訟について	鈴木喜代麿	税経通信	
行政事件訴訟に現われた税法の問題点	関根達夫	税経通信	
租税争訟制度(再調査の審査及び訴訟)	深田秀利	税経通信	
最近税訴訟における税法並に会計学上の問題	松宮隆	税経通信	
税務訴訟における举证責任	広瀬時映	税経通信	
税務訴訟における立証責任の転換	堀五之助	税経通信	
裁判例に現われた税法上の諸問題(上)	津田実	判例タイムズ	一卷四号
地方税法と行政事件訴訟特例法	税通編集部	税経通信	
最近における労働関係民事行政事件の概況	最高裁判所事務総局 行政局	法曹時報	二卷四号
行政事件と労働事件	新村義広	判例タイムズ	一卷二号

外国の海難審判制度 (5) 仏国及び米国

判例 回顧 (行政法)

最高裁判例の展望 (行政事件)

○アメリカの行政争訟制度及び行政争訟手続法 (法務研究報告書)

違法処分を変更する裁判所の判決について

森 清 法学新報 五七卷三号

雄川 一郎 法律時報 二二卷一二号

田中 真次 判例タイムズ 一卷一号

川上 勝巳 法務府法制意見第四局 二五年一月

磯崎 辰五郎 公法雑誌 一一卷二号

六、行政作用

◇国籍法

書名または論文題

著者または筆者

発行所または掲載雑誌

発行年月日または掲載雑誌巻号

新国籍法の解説

平賀 健太

法律時報 一二卷七号

新国籍法について

平賀 健太

法律時報 二卷六号

新国籍法の改正構想

平賀 健太

戸籍 九号

国籍と戸籍

平賀 健太

戸籍 一三号

新国籍法と戸籍法の改正規定

平賀 健太

戸籍 一二号

国籍離脱の自由と妻の国籍

平賀 健太

法律のひろば 三卷六号

外国人登録令について

——本令の適用範囲

江尻 美雄 警察時報 五卷六号

新国籍法関係資料

全国連合戸籍事務協議会編集 戸籍 一一号

アメリカ法における国籍喪失の原因としての日本国籍の回復

ブレクモア、トーマス・L 法曹時報 二卷四号

◇公企業・公用負担・公用収用

河川行政上の諸問題

伊藤 大三 建設時報 二卷四号

公共企業体を中心とする法律関係

杉村 章三 自治研究 二六卷一号

公企業の特許について

須貝 修一 都市問題研究 七号

新憲法と土地収用法

川口 京村 建設月報 三卷五号

土地収用法の改正に関する諸問題

小林 忠雄 建設時報 二卷四号

農地と都市計画との関係

功藤 令造 建設時報 二卷七号

土地区画整理と仮処分

今村 三郎 列例タイムズ 一卷四号

——換地予定地の指定を中心として——

新谷 正夫 法曹時報 二卷一〇号

土地台帳法等の改正に関して

須貝 修一 建設時報 二卷九号

米国公用収用制度の特徴

スマイリー 第一出版株式会社 二五年五月下旬

○アメリカの公衆衛生行政 (初)

◇警察法

○民主主義と警察	矢部貞治	立花書房	二五年
ポリスパワーと人権	牧野英一	警察研究	二一巻四号
警察と基本的人権の尊重	田中二郎	警察時報	五巻六号
「人民のための警察」について	弘律茶輔	警察時報	五巻七号
警察法に関する若干の問題	田上穰治	警察学論集	一〇号
○警察法の問題研究(受験叢書)	新警察社編集部編	新警察学論集	二五年一月
警察物語	辻二郎	法律のひろば	三巻五号
警察権の限界を論ず	三田八郎	警察学論集	九号
○公安警備警察原論	森木正一	立花書房	
警察の行政管理と运营管理	田上穰治	一橋論叢	二四巻四号
警察地方分権の直義	土屋正三	警察研究	二二巻八号
警察法第五五条に関連して	柏村信雄	自治時報	三巻三号
警察行政の現状と問題点	神谷尙男	警察研究	二二巻三号
公安条例に関する若干の問題	入江俊郎	郵政時報	二巻八号
警察と法の執行	忽那寛	警察学論集	一一号
管轄区域外の職権行為に関する問題	宮崎清文	警察研究	二二巻四号
警察法第五五条の解釈について	川島博一	自治研究	二六巻八号
建築基準法について	小官賢一	自治時報	三巻七号

建築士法と建築基準法	内藤亮一	建設時報	二巻六号
その緊要性とその主要点について	内藤亮一	法律のひろば	三巻一〇号
建築基準法と建築士法	小官賢一	建設時報	二巻二号
その目的と主要点について	中原英典・鈴木三郎	警察学論集	一五・一六号
市街地建築物法関係三省令の改正	ライアン・アンドレ	警察時報	五巻八号
明治初年における警察制度の確立(2)(3)			
アメリカ合衆国の警察			

◇税法

[税法一般]			
○租税法概論	忠佐市	日本評論社	二五年一月
○租税法概論	金子一平	大蔵財務協会	二五年二月
○租税法の基礎理論	忠佐市	大蔵財務協会	二五年二月
税制改正とその意義	藤田武夫	法律時報	二二巻七号
国税と地方税との関係	汐見三郎	都市問題研究	一〇号
○間接税の解説(初)	志場喜徳郎	税務経理協会	二五年六月
○新しい間接税の話	前尾繁三郎	東京原書房	二五年
申告納税制度における申告の効果につ	税通編集部	税経通信	
認定課税は適法か違法か	税通編集部	税経通信	

- 課税に対する不服申立と罰則 忠 佐市 財政経済弘報社 二五年四月
 - 被解雇者と過納税還付請求権 小宮山貞男 労働法律旬報 一二号
 - 現行国税徴収法要義 高橋整之助 大蔵財務協会
 - 所得と税額の決定に関する諸手続及び租税の徴収について 泉美之松 税経通信
 - 国税徴収法と国税犯則取締法の話 前尾繁三郎 東京原書房 二五年
 - 滞納処分精解 高橋整之助 大蔵財務協会
 - 国税滞納処分について(4-6) 飯田利男 税経通信
 - 滞納処分とその救済 杉山宗六 税経通信
 - 租税の行政訴訟について 鈴木喜代鷹 税経通信
 - 行政事件訴訟に現われた税法の問題点 関根達夫 税経通信
 - 租税争訟制度(再調査の審査及び訴訟) 深田秀利 税経通信
 - 最近税務訴訟における税法並に会計学上の問題 松宮隆 税経通信
 - 税務訴訟における挙証責任 広瀬時映 税経通信
 - 税務訴訟における立証責任の転換 堀五之助 税経通信
 - 裁判例に現われた税法上の諸問題(上) 津田実 判例タイムズ 一卷四号
- (国税)
- 税務事典(初) 大蔵省主税局調査課 有信堂高文社 二五年六月下旬
 - 国税諸法 原純夫 東京羽田書店 二五年五月

- 改正税法の解説 税務経理協会編 税務経理協会 二五年四月
- 解説改正税法 塚田十一郎 東京日本経済新聞社 二五年四月中旬
- 新税法の詳解—改正税法の早わかり—(初) 大蔵省主税局 中央労働学園 二五年四月
- 新税法の解説 中央労働学園 東京中央労働学園 二五年四月
- 新税法の意義 藤田武夫 法律時報 二五年
- 間接国税の理論と実務 志場喜徳郎 東京税務経理協会 二五年
- 明るい税務行政の前途 高橋衛 税経通信 五卷一号
- 脱税と税制改革 井手文雄 経営評論 五卷八号
- シャウプ勧告に基づく国税の改正 平田敬一郎 自治研究 二六卷三号
- 同族会社に対する課税について 松井静郎 財政経済弘報 二〇〇号
- 新税詳解 大蔵財務協会 大蔵財務協会 二〇〇号
- フアイナンスダイジェスト
- 最新所得税法詳解 田口卯一 双珠社
- 改正所得税法詳解 辻克藏 東京財政経済弘報社 二五年四月
- 改正所得税法詳解 辻克藏 財政経済弘報特別号 八号
- 改正所得税法詳解 シャウプ勧告と所得税 武田隆夫 経済学論集 一九卷六・七号
- 変動所得とその平均課税について 坂井忠宏 税経通信
- 改正所得税法における更正の請求について 古川久 税経通信
- 災害に因る所得税の減免について 鈴木敏夫 税経通信

- 源泉所得税の実務(初) 川島光三郎 税務経理協会 二五年六月上旬
- 賦課徴収所得税の実務(初) 永井岩 税務経理協会 二五年六月上旬
- 所得税総合合算の具体例 坂井忠宏 税経通信
- 所得税の実務 永井岩 税務経理協会
- 改正法人税法提要 国税庁大阪国税局 大阪月刊経理編集部 二五年
- 改正法人税の解説 石田八郎 東京広文堂 二五年六月
- 改正法人税法詳解 市丸吉左衛門 弘報特別 九号
- 改正法人税法の研究 田中勝次郎 白亜書房
- 改正法人税疑問点問答集再版 門屋馨 大阪月刊経理編集部 二五年
- 法人申告納税の実務(初) 和田秀夫 税務経理協会 二五年六月上旬
- 改正相続税法詳解 下条進一郎 財政経済弘報 一八二号
- 相続税富裕税の実務(初) 泉美之松 税務経理協会 二五年六月
- 物品税法詳解 田中黙宗外二名 双珠社 二五年一月
- 物品税法精義 後藤貞治 日本税務協会
- 資産再評価法の解説 大蔵省・理財局 東京日本経済新聞社 二五年四月
- 資産再評価法詳解附関係法令全文 磯江重泰 東京財政経済弘報社 二五年四月
- 問答式 資産再評価の解説と実際 大蔵省主税局理財局共編 東京白桃書房 二五年四月
- 法人資産再評価法解説と実務 市丸吉左衛門 外 東京税務研究会 二五年五月

〔地方税〕

- 地方税法案の問題要点 武田隆夫 法律時報 二二卷八号
- 新地方税法に関する諸問題 鈴木武雄 自治時報 三卷九号
- 地方税法に関する国会の論議 鈴木俊一 自治時報 三卷九号
- 地方税審議会を顧みて 汐見三郎 自治時報 三卷五号
- 新地方税法の研究 奥野誠亮 他六名 自治公報 二六卷増刊号
- 改正地方税法の問題点 中島正行 自治公報 一七卷一〇号
- 附加価値税・固定資産税・市町村民税解説 谷川寛三 一二三書房 二五年五月
- 本税賦課の取消と附加税の賦課の効力 磯崎辰五郎 民商法雑誌 二六卷一号
- 附加価値税における諸問題 江村稔 経済学編集 一九卷六、七号
- 附加価値税の會計学的考察 井藤半弥 経済研究 一卷四号
- 附加価値税の諸問題 土井金之助 税務経理協会 二五年六月
- 附加価値税の実務(初) 吉瀬宏 財政経済弘報特別号 一二号
- 固定資産税法詳解 税通編集部 税経通信
- 地方税法と行政事件訴訟特例法
- 〔外国文献〕
- 米国税務行政の概況 原純夫 財政経済弘報 二〇九号
- アメリカに於ける財産税(上)(中)(下) 法貴三郎 自治公論 一七卷六、八、九号
- 協議官と相続裁判所 金子一平 財政 一五卷一号
- 米英の制度とその運用

◇農地

- 農地改革——經濟民主化の進展——
 - 農業民主化の指針
 - 将来の農地対策について
 - 近世農政史論——日本封建社会史研究序説——
 - 封建的土地所有の成立過程
 - 日本小作制度論
 - 近世農業水利組合の性格
 - レーニン 農業問題
 - 土地改革の農民的形態
 - 水利権と耕作權——四國農業の私法問題——
 - 自作農創設特別措置法の一部を改正する等の法律案解説
 - 農地改革後の土地問題——ポツダム政令公布を中心として——
 - 農地改革違憲訴訟の動向
 - 自作創設特別措置法と地主の自作化——同法第六條第四項の法意——
 - 農地改革に於ける登記
- 農地改革に於ける一山村の法的生活
——福島県東白川郡岡本村による——
- 戒能通孝 早稲田法学 二五卷三、四号
- 加藤正男 同志社法学 五号
- 太田哲三 監修 東洋經濟新報社 二五年五月
- 山口良雄 法律時報 一二卷七号
- 金沢 法律時報 一二卷七号
- 目波 法律時報 一二卷七号
- 横田正俊 法律時報 一二卷七号
- 大橋光男 法律新法 七五六号
- 今村成和 財政經濟公報 一七八号
- 永野量 財政經濟公報 一八一号
- 高島正夫 法学研究 二三卷九号
- 竹中喜満太 公正取引 七号
- 新谷正夫 帝国判例法規出版社 二三年
- 中川善之助 私法 三三号
- 結城庄吉 自治公論 一七卷四号
- 和田正明 自治時報 三卷一〇号
- 加藤一郎 法学協會雜誌 六八卷四号
- 今村成和 自治研究 二六卷一〇号
- 朝野勉 青木書店 二五年五月
- 大竹秀男 法学 一四卷二号
- 木村莊之助 東京叢文閣 二一年九月
- 松本新八郎 伊藤書店 二五年四月
- 藤田五郎 東京御茶ノ水書房 二三年
- 農林省農政局農地部 東京農林省農地部 二三年
- 田中長三郎 東京長谷川書店 二三年
- 加藤一郎 日本管理法令研究 二五年五月三〇号

◇經濟統制、社会立法

- 近代的所有權の成立過程に關する一考察
——フランス革命における土地所有の二問題——
- 新企業形態
- 經濟關係法の動向
- 經濟統制の回顧と展望
- 独占禁止法と經濟統制
- 独占禁止法の實體法的浸透例——独占禁止法と商法との關係の具体例——
- 独占禁止法に基づく不正競争方法の禁止について
- 公取の第一次指定に際して——
- 改正不正競争防止法解説
- 商標等の不正使用禁止の範圍拡大——
- 不正競争について(2完)
- 「不正競争」と「不正な競争方法」
- 公正且つ自由な競争の促進のため——
- 加藤正男 同志社法学 五号
- 太田哲三 監修 東洋經濟新報社 二五年五月
- 山口良雄 法律時報 一二卷七号
- 金沢 法律時報 一二卷七号
- 目波 法律時報 一二卷七号
- 横田正俊 法律時報 一二卷七号
- 大橋光男 法律新法 七五六号
- 今村成和 財政經濟公報 一七八号
- 永野量 財政經濟公報 一八一号
- 高島正夫 法学研究 二三卷九号
- 竹中喜満太 公正取引 七号

独占対策の傾向
統制撤廃後の日本経済と独占禁止法
(座談会)

中山喜久松他八名
公正取引
法律タイムズ 四巻一号
三三三

私的独占禁止法に係る最近の審判事件概観

寺岡卓夫
財政経済公報 二二二号

私的独占禁止法第三条と第四条の關係について
"Rule of Reason" と "Per se Violation"

今村成和
財政経済公報 二一六号

独占禁止法第十六条における「営業」「重要部分」「譲受」につき

阿久津実
公正取引 四号

中小企業からみた独占禁止法の要望

稲川宮男
公正取引 五号

独占禁止法と中小企業

高宮晋
公正取引 五号

独占禁止法上より見たる單純なる一手販売権授与の契約

山田弘之助
公正取引 七号

財閥解体——経済民主化の進展——

鈴木竹雄
日本管理法令研究 二五年五月三〇号

○事業者団体法

公正取引委員会事務局
東京河口書店 二三年

事業者法に基づく許容活動の認可状況

辻吉彦
公正取引 三号

集排法關係事務の公取移管につき

土屋貞雄
公正取引 四号

事業者団体法による届出書の処理状況

辻吉彦
公正取引 六号

公団廃止に伴う事業者団体法上の問題点

稲葉秀三
公正取引 五号

朝鮮問題と公正取引

稲葉秀三
公正取引 六号

金融關係の動向
不正金融の法律的責任(1)
「浮貸」について

谷村裕
法律時報 二二卷一号

改正証券取引法解説

結城義人
財政経済弘報 一八〇号

証券取引法の一部改正解説

結城義人
財政経済弘報 二〇八号

商品取引法の改正について

吉田信邦
財政 一五卷四号

新商品取引法の下における取引所

池田中弘
財政経済弘報 一七八号

商標法第二条第一項第五号について

向井鹿松
法律時報 二二卷一号

商標中ある部分に対する権利不要求に就いて

杉林信義
パテント 三卷三号

○工業所有権論

杉林信義
パテント 三卷一号

○日本漁業概説

永田菊四郎
東京富山房 二五年五月

漁業制度の改革について

潮見俊隆
法律時報 二二卷二号

漁業制度改革のはなし

庄司東助
東京暁明社 二五年

○漁業制度の改革
新漁業法条文解説

潮見俊隆
法学協会雑誌 六八卷二号

○漁業制度の改革
新漁業法の解説

松本威雄
法律のひろば 三卷二号

漁業制度改革の概観(一)(二)

水産庁経済課編
東京日本経済新聞社 二五年四月

漁業制度改革の概観(一)(二)

潮見俊隆
法律時報 二二卷二号

漁業制度改革の概観(一)(二)

堀合道元
法律タイムズ 四巻二、三号

○漁業制度改革問答

漁業権の研究 三
禁漁区と専用漁業権との関係
水産業協同組合法をめぐる問題
鉱業法第三条にいわゆる「廢鉱」の意義
開港をめぐる諸問題
港灣法について

○外国為替及び外国貿易管理法解説

外国為替及外国貿易管理法とその構想
外国為替及び外国貿易管理法について
外国為替及び外国為替管理法
——新貿易機構及び手続——
外国為替管理令詳説
外国為替管理の形態と将来
最近に於ける外国為替の諸問題
為替管理と貿易管理
○外国為替の理論と実務
(理論と実務叢書)
輸入貿易管理令の一部改正
輸入の自動承認制度について

外貨証券、在外不動産等の管理に関する省令
土地立法の史的考察(6-8)

◇教育

○教育法解説

教育公務員と政治運動

○新教育法令読本

○民主主義教育への道
(守内喜一郎訳)

○現職教育行政必携

○教育行政と職務分掌

○教育職員の免許法について

教育職員の免許法及び同法施行法の一部改正について

○教育職員免許法とこれからの現職員教育展望

教育委員会法の一部改正
——そのいきさつと要点——

○(重要)教育法律解説

久完 高 中央労働学園 二五年四月
潮見 俊隆 法律時報 二二卷一号
川島武宣・潮見俊隆 判例研究 二卷八号
山田 嘉治 農林行政研究 二卷二号
山主 政幸 日本法學 一六卷二号
中島 晴雄 財 一五卷六号
松村 清之 建設時報 二卷一〇号
稲益 繁 東京外国為替研究会 二四年
奥村竹之助 法律タイムズ 四卷二号
岡野 安宏 財政 一五卷三号
遊佐上 治 経済調査 二五年一月号
奥村輝之・加藤恒三郎 財政経済弘報 一九五号
奥村 輝之 財政経済弘報 二一四号
渡辺 誠 財政経済弘報 二〇四号
尾崎 英二 経済調査 五号
神野 正雄 経営評論社
今村 昇 財政経済弘報 二〇四号

奥村 輝之 財政経済弘報 一九七号
小倉 武一 農林行政研究 二卷一、二、三号

桜井 役 堀書房 二五年一月
相良 惟一 公務員 五卷三号

宮地 茂 東京日本教育振興会 二五年

アメリカ合衆国教育政策委員会編 目黒書店

安藤 堯雄 東京光文社 二五年

相良 惟一 東京誠文堂新光社 二五年四月

高橋 貞三 都市問題研究 七号

上野芳太郎 公務員 五卷四号

上野芳太郎 文部時報 八七四号

秋山 半一 文部時報 二卷一号

天城 勲 文部時報 八七三号

辻田 力 公務員 五卷一号

桜井 役 東京堀書房 二五年一月

七、判例批評

◇一般行政事件

判例小解 追放と日本の裁判権

最高裁判例紹介

〔一〕、団体等規正令並びに解散団体の財産の管理及び処分等に関する政令に基づく事務総裁の処分をめぐり争う訴の提起があつたときの裁判

判例小解 巡査の誤殺と国家賠償

○海難審判庁裁決録（昭和二十四年度）

禁漁区と専用漁業権との関係

私立学校退学処分と法律上の性質とその効力の判定

千種 達夫 法律時報 二二卷九号

田中 真次 判例タイムズ 一卷五号

千種 達夫 法律時報 二三卷一号

高等海難審判所 東京海上保安新聞社 二五年六月

川島武宣・潮見俊隆 判例研究 二卷五号

藤林 益二 判例タイムズ 一卷四号

◇地方自治関係事件

公安条例と違憲問題

昭和23、10、16、福井地裁違憲法令無効確認請求事件、行政裁判月報第四号（行訴特3）

最高裁判例紹介

〔二〕四、解職投票前の解職投票手続に関する個々の処分の取消を求める訴の適否

宏戸 基男 警察学論集 二五年六月 一三号

田中 真次 判例タイムズ 一卷一〇号

地方議会秘密会を開く手続

地方議会の秘密会成立手続と秘密会における議決昭和24、2、22最高第二小法廷判決行裁月報13（地自法115）

柳 瀨 良 幹 民商法雑誌 二五卷四号

山田 幸 雄 自治研究 二九卷一号

田中 二郎 自治研究 二六卷一二号

村議会における議員の除名決議とその取消請求
会議規則の規定事項
懲罰規定の不遑及
昭和24、2、19東京高等裁判所判決、行政裁判月報13（地自法131）

◇選挙関係事件

最高裁判所裁判官国民審査の効力に関する異議上告事件

○公職選挙法
実判例集
（昭和二十六年年度版）

浦田 関 太郎 日本弁護士連合会誌 一卷四号

地方行政研究会編 東京法令出版株式会社 二五年二月

新村 義 広 判例タイムズ 一卷六号

最高裁判例紹介

〔一〕五、訴が不適法である場合にその訴が高等裁判所の管轄に属するかをめぐり、地方裁判所に提起されたかため、同裁判所がこれを却下し、却下判決に対し控訴が提起されたときの高裁判所の判決

田中 真次 判例タイムズ 一卷一〇号

最高裁判例紹介

〔二〕六、当選訴訟係属中の繰上補充と当選訴訟の判決

田中 真次 判例タイムズ 一卷一〇号

最高裁重要判例紹介 「二四、補助参加人の上告提起期間」	田中真次	判例タイムズ	一卷六号
最高裁重要判例紹介 「二五、補助参加人の上告理由提出期間」	田中真次	判例タイムズ	一卷六号
調査表に事実をかくした記載があると 賞書非該当確認書は当然無効になるか 当選訴訟の口頭弁論と検察官の立会	宮沢俊義	判例研究	二卷六号
最高裁重要判例紹介 「九、道府県制による選挙と市制による選挙を同時に行つた場合の選挙の効力」	田中真次	判例タイムズ	一卷四号
最高裁重要判例紹介 「二三、選挙を一部無効とすべき場合」	田中真次	判例タイムズ	一卷六号
選挙無効を原因とする当選訴訟 参議院議員選挙に関する訴訟の裁判と 検察官立会の要否——当選決定後にお ける公職追放賞書該当指定と当選の効 力	田上穰治	民商法雑誌	二五卷四号
町村制一五条三項に規定する被選挙権 なき者の解釈	山本桂一	判例研究	二卷六号
選挙法上の住所その他	小宮沢俊義	判例研究	二卷六号
最高裁重要判例紹介 「八、投票の効力」	山村章三	判例研究	二卷七号
余分な点字劃の記載してある投票の効 力	田中真次	判例タイムズ	一卷四号
山	山村章三	判例研究	二卷五号

不正確に記載した投票の効力——姓名
たは名のみを記載した投票の効力

宮沢俊義	判例研究	二卷七号
------	------	------

最高裁重要判例紹介
「七、道府県制第一八条号八項の要
求する選挙人の自書能力」

田中真次	判例タイムズ	一卷四号
------	--------	------

最高裁重要判例紹介
「一一、権限のない者によつて選任
せられた投票立会人の投票立会と投
票管理者の黙認」

田中真次	判例タイムズ	一卷六号
------	--------	------

最高裁重要判例紹介
「五、村長当選承諾書の提出と地方
自治法第六〇条第三項の届出」

田中真次	判例タイムズ	一卷三号
------	--------	------

最高裁重要判例紹介
「六、地方自治法第六一条第一項に
よる当選証書付与に対する争訟の方
法」

田中真次	判例タイムズ	一卷三号
------	--------	------

最高裁重要判例紹介
「四、村長代理助役が村長選挙に当
選し助役を辞する場合と地方自治法
第一六五条」

田中真次	判例タイムズ	一卷三号
------	--------	------

選挙管理委員会の会議録作成の要否

磯崎辰五郎	民商法雑誌	二五卷四号
-------	-------	-------

◇農地関係事件

行政事件訴訟特例法施行前における農
地買収計画決定に対する出訴
——出訴期間の起算点——

田中二郎	自治研究	二六卷一〇号
------	------	--------

農地買収計画に対する異議申立を
経ないで提起した買収処分取消
請求の訴え(自作農創設特別措置
法五条五号)に「指定」は法
規裁量行為であるか(昭和三
十三年十月六日秋田地裁判決、
行判月報14(自創法5V))

最高裁重要判例紹介

「一六、自作農創設特別措置法に
よる買収計画に対する不服申立の
権利を失つた後に、買収処分取
消訴訟において、買収計画の違
法を主張することの当否」

行政処分の執行停止を求める仮
処分申請と行政事件訴訟特別法
第十条第二項の執行停止

最高裁重要判例紹介

「一九、行政処分無効確認の訴
と行政事件訴訟特別法第一条」

異議申立期間の経過とその宥恕

最高裁重要判例紹介

「二三、自作農創設特別措置法
第六条の二第二項第一号に該当
しない場合」

最高裁重要判例紹介

「二二、現に耕作の業務を営ん
でない農地所有者と自作農創
設特別措置法第六条の二第二
項第四号及び農地調整法附則
(昭和二十二年法律第二四〇
号)第三条第二項第五号」

藤田晴子 自治研究 二六卷一二号

田中真次 判例タイムズ 一卷六号

橋本公亘 法学新報 五七卷六号

田中真次 判例タイムズ 一卷七号

満田文彦 判例タイムズ 一卷三号

田中真次 判例タイムズ 一卷一〇号

田中真次 判例タイムズ 一卷八号

最高裁重要判例紹介
「一〇、自作農創設特別措置法第
五条第一項第二号による宅地の
買収と買収農地との関係」

田中真次 判例タイムズ 一卷四号

自作農創設特別措置法に基づく農
地買収による所有権の移転・登
記名義の回復のためにする所有
権移転登記手続と農地調整法
第四条、昭和二十四年四月六
日最高裁第三小法廷判決民集
(自農創特)31、61、81、51、
121(農調4)

松坂佐一 民商法雑誌 二五卷六号

改正前の農地調整法九条一項は「
解除」に適用されないか

我妻栄 判例研究 二卷七号

農地調整法九条第二項但書に「
わゆる一特別ノ事由ニ因リテ一
時貸借借付為シタルコト明ナル
場合」と同条第一項及び第三
項の適用の有無(昭和二十四
年四月九日最高裁第二小法廷
判決(昭23(オ)62請求異議事
件)最高民集三卷四号)

小西勝 民商法雑誌 二五卷五号

最高裁重要判例紹介
「二二、農地の所有権移転登記
と登記前になされた貸借契約
解約申入れの効力」

田中真次 判例タイムズ 一卷八号

◇租税関係事件

租税関係判例解説判例評釈(2—3)

津田実 財政経済弘報 一六六号
一七四号

最高裁重要判例紹介
「二三、税務署長のした滞納処分
の執行停止を求める仮処分申請の適
否」

田中真次 判例タイムズ 一卷九号

本税賦課の取消と附加税の効力

宮沢俊義・小島和司 判例研究 二巻五号

最高裁重要判例紹介

田中真次 判例タイムズ 一卷七号

「二七、条例の告示と効力」

最高裁重要判例紹介

田中真次 判例タイムズ 一卷七号

「二八、市民税の税率を改正した条
例を告示しないで改正条例によつて
した賦課の効力」

最高裁重要判例紹介

田中真次 判例タイムズ 一卷七号

「三〇、戦時補償特別措置法第一四
条の申告書不提出の場合の特殊預金
全額徴収と国の不当利得」

田中真次 判例タイムズ 一卷七号